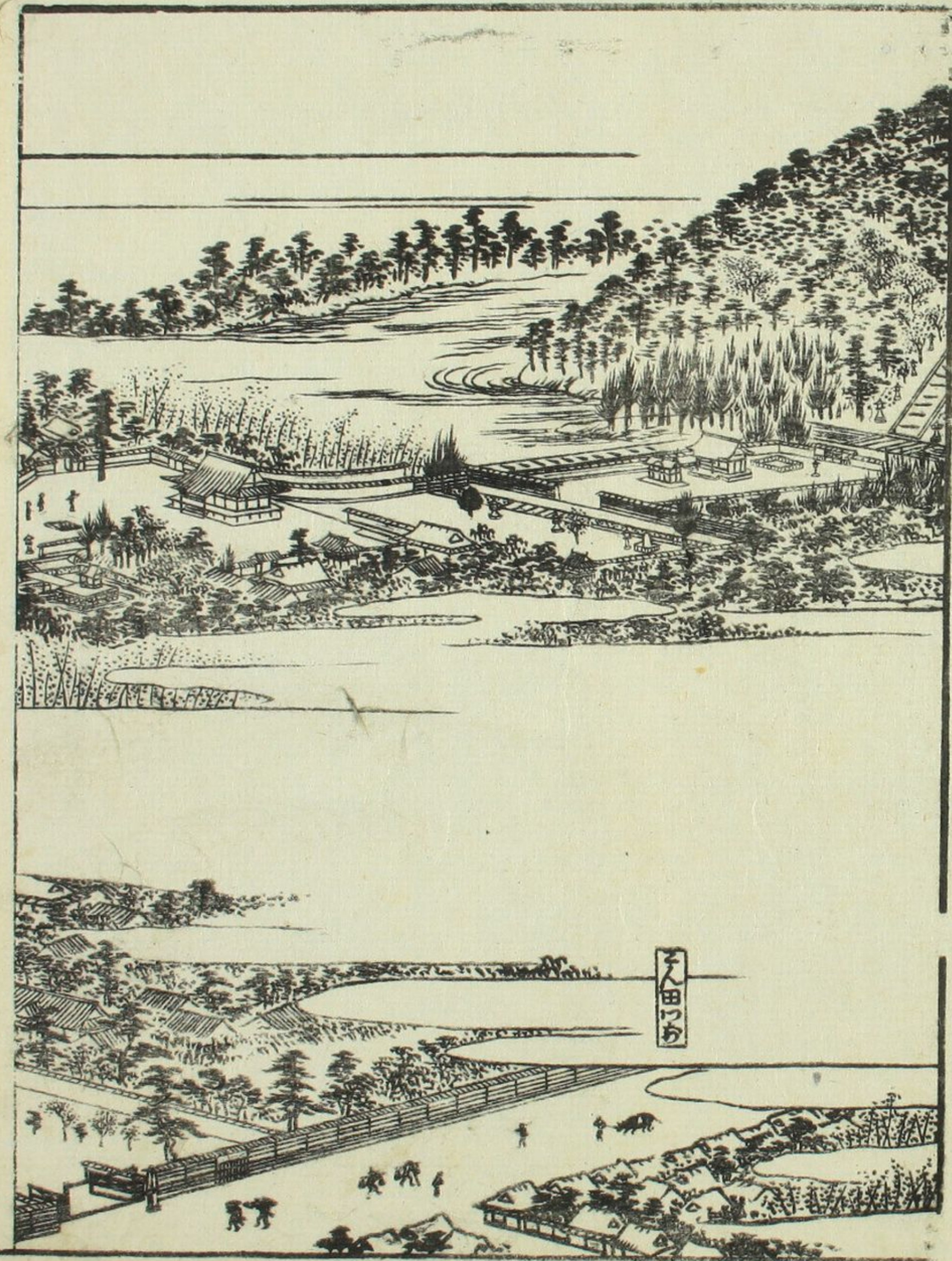


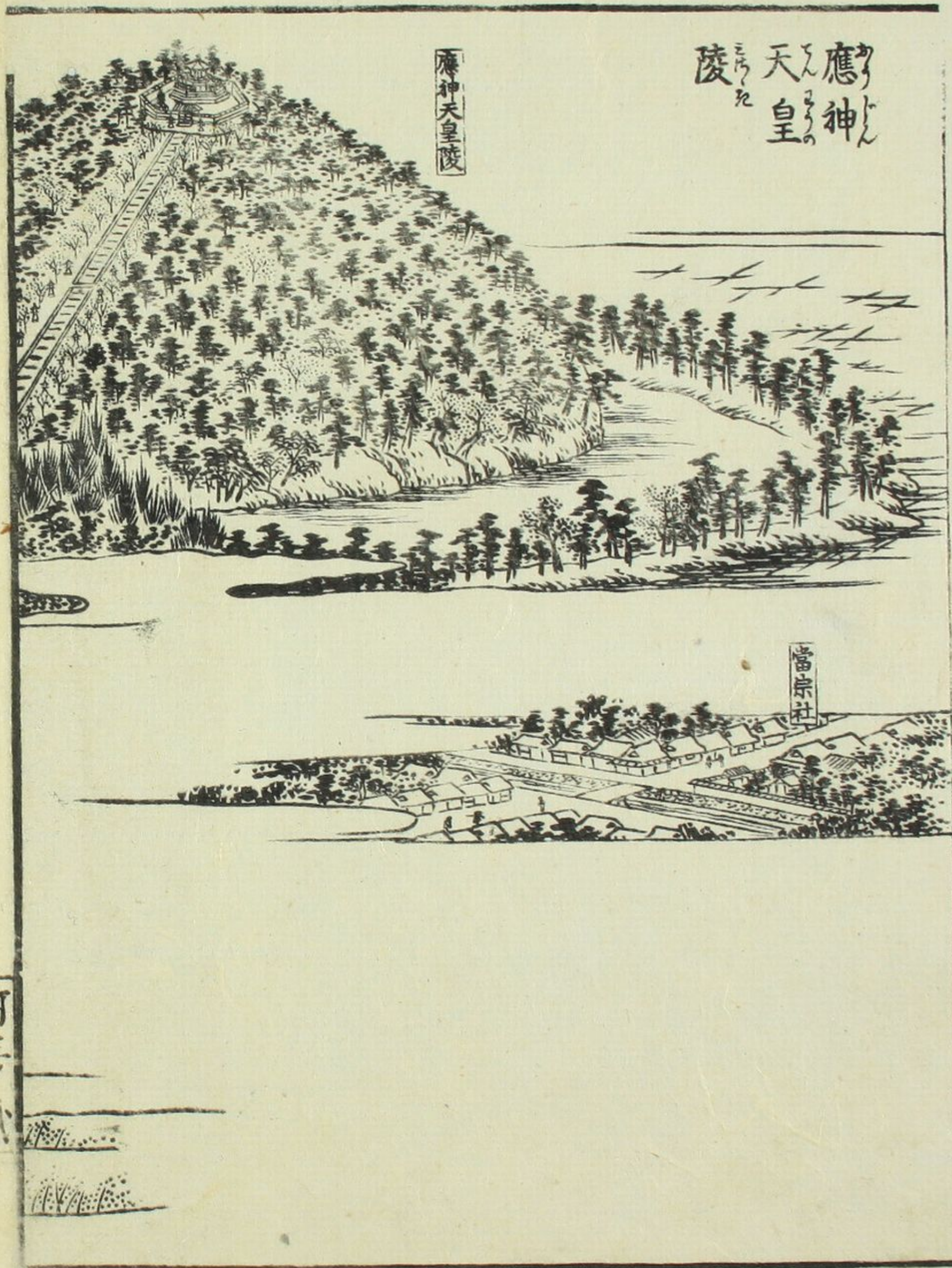
河南名所圖會

三





千人田

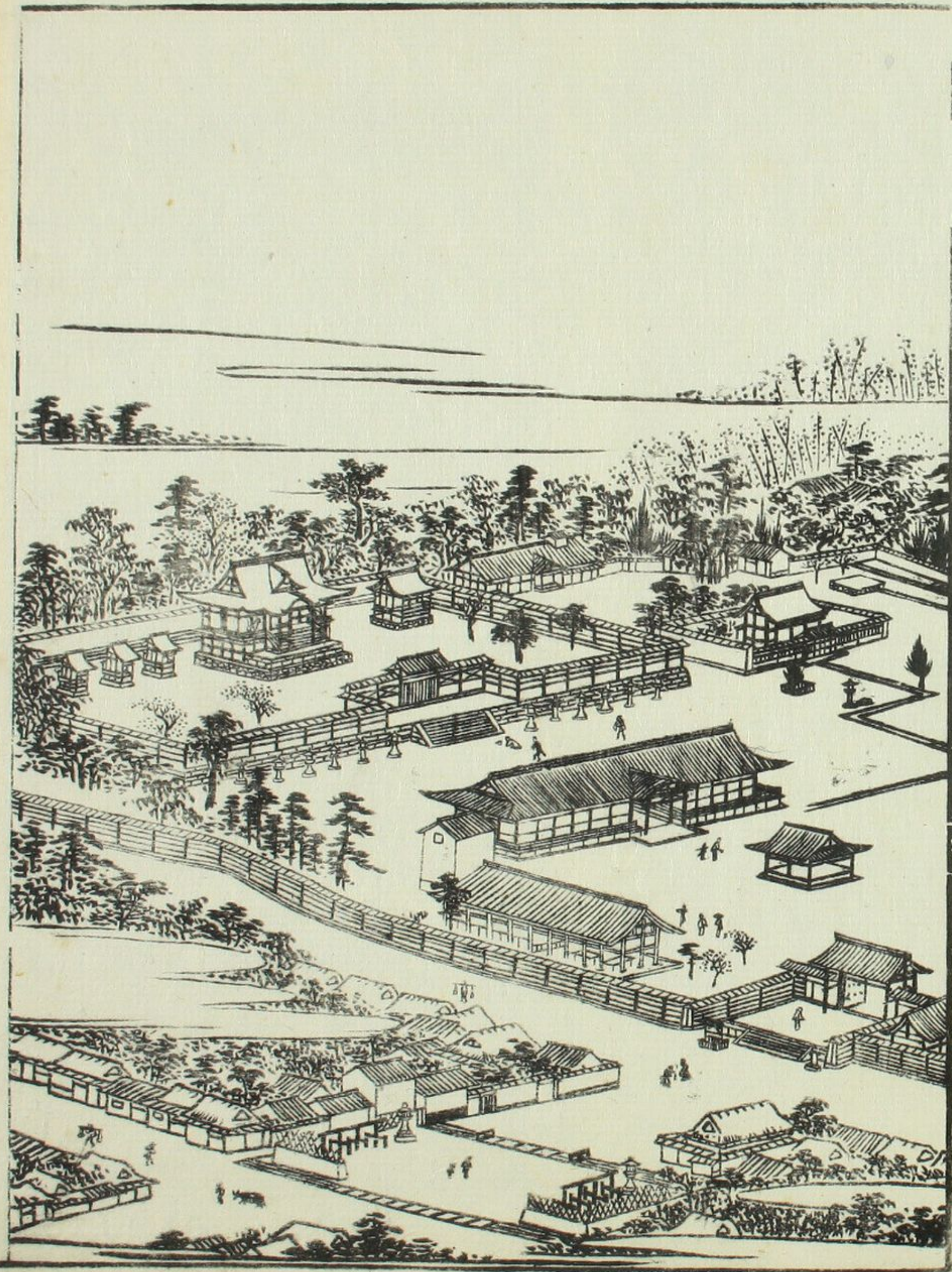


應神天皇陵

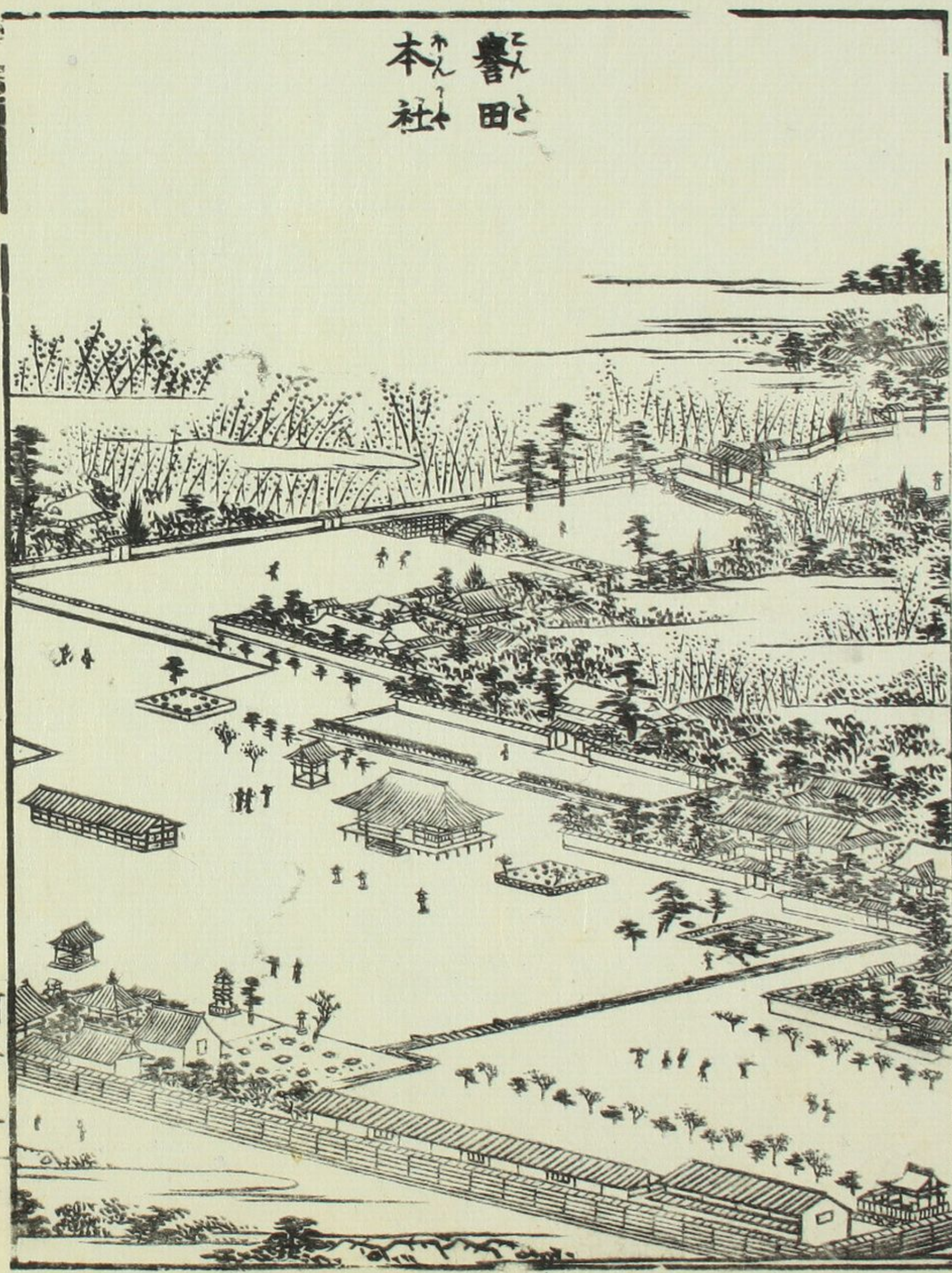
應神天皇陵

當宗社

河三ノ



本 社
觀 田



河三三

古市郡

東南石川郡の界に隣りて西と丹波郡の界と隣り北と安芸志紀と

長野山譽田八幡宮

譽田村小あり信濃十五宮一宮也

本社 宗神中央應神天皇 左仲哀天皇 住吉大神 右神功皇后一座神祕以上

權殿 北の方に 末社 瑞籬の外側山下高良社ありこれ武内宿禰とあり

本地堂 護國寺也釋尊真言宗本尊阿彌陀佛を安置し定朝作

觀音堂 聖徳太子所作の十一面觀音坐像五尺 開基弘法大師

十三層石塔婆 弘法大師 造立之其外

樂師堂 多寶塔址 大階堂址

阿彌陀堂 定朝作の阿彌陀佛を安置し

辨財天祠 東の方池の中邊あり

蛇文字石 讀之むやう 爰に社未詳 其跡の石上血し香

綾杉 龍池 王公勅符あり

石反橋 奧院にあり其外 瑞籬の址 護國寺の

應神天皇陵

志記 郡津社古市郡ありと云 志記 郡津社古市郡ありと云

實殿を建外側あり 赤土壺山陵 赤土壺山陵 赤土壺山陵

計右小櫻を植く 石燈籠二十基 其下に直令場中あり

代古松繁茂 赤土壺山陵 赤土壺山陵 赤土壺山陵

用を盛く山陵の形れさる 赤土壺山陵 赤土壺山陵 赤土壺山陵

日本紀云 應神天皇 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天

長足 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天

冬十 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天

立為 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天

雄既 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天

年一 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天 尊天

夫は山陵古人皇十六代の帝 應神天皇の玉體公藏奉所あり

天皇大和國高市郡橿原輕高豐明宮小皇居一移以御在位四指
是年聖壽百十歳はして同濟宇四指一年の春二月十五日崩御小濟遺詔
によみ長野の山陵小藏なる以小濟父仲哀天皇小濟宇三韓より救百萬
騎を率領へ攻めたる 天皇 五萬騎を引率し穴戸國豐浦宮小劫死異
賊退治の軍議あり三韓の大將塵輪等の者黒雲小乘して日本入りり
人民を殺し率救せし其時事安倍高丸今丸派從く武内臣孤副將
をして自濟弓取箭を射し射せ給ひ忽塵輪が首被射斬して亡ひ
小あり其毒氣玉體小恙ありて濟壽も危く皇妃神功皇后小勅して
曰汝三將軍より異國孤退討せよ胎内小妊いを子なれを降
誕の後心く實作小即べしと遺詔ありて同濟宇九年二月六日
聖壽五十二歳にして筑紫橿原宮より崩御皇后は有小儀と
三韓退治の爲小救方の軍勢と率く異邦小おもむけり其時白髪の
老翁來り皇后小濟休侍る門司國孤をんく香椎の邊せり所小

着せ給ふかの老翁申さる鹿島と云ふ安曇磯良を申さるのあり
海中に久しく棲く案内孤若たる者なれをわが孤召て龍宮小
洗り干珠備珠名を顯を龍王小得少いこれと云ひて三韓
退討ありは勝利疑ひねしと奏し皇后諾しわいさるる磯良孤
何して召べしや翁云は奉る海波と申奉樂を持小愛しり
海上小舞臺と構く舞しめ給り磯良速小あふべし即供奉
の人々に奉給奏させ翁奉りは磯良身小奏して奉侍久く
海中小生りれを與ふと賜胞ふとむしや小付て津衣小神ふて
顔瓜鷹い龜小のりて奉ふ其より磯良案内者として皇后を
小妹豊姫を使しりて遣されりまを竜王よりかの兩顆小持お
られりる皇后則四十八艘の軍船を繰りて異域小渡り欲紅迫く
漕寄させまが干珠孤海上へ投入を漫々く小瀬水は豊珠
れ入る陸路のぬし三韓の軍勢何れ思ふもぬく悉知と下て

倭船を同船く切てのち其間小致船を棄ひ多く相圖公と云く
滿珠公海上へ投入多人を湖水初小百倍して四方より涌出れ、三
韓の軍勢凌之、大溺死し、異國公安く候し、多をこの國日本
國不從ひく、永く年々調貢派奉り、昂老翁と位名神、
はく地神五代鷓鴣草曹不合尊の清平之、又儀良也、
あて麻務明神大和少く春日の神、即武甕槌命之、皇后筑紫に
沛凱陣ましく、十二月四日辛卯日、應神天皇降誕し、
今小致く卯日辰日と云、仲哀天皇の嫡后大仲姫の皇子麿坂
思熊の二王子皇后孫人、侍りけり、内居を子を抱き、
南海より紀伊國小野の二王子と皇后やちく、
沛遺勅ふよ、
聖妻一百と申れ、大和國高市郡磐余稚櫻宮少く、
四葉に、皇太子小立せ給ひ、
河三ノ六

應神天皇也申す、仲哀事、
沛子十九人は沛代ふ初く文字り、
延喜明宮少く、
二十年二月十五日行幸ありて、
伴成現、
の爲七日奉養、
中祈、
其満、
ごま、
勅を、
吉市郷、
坐禪、
て迦陵、

歸命金剛秘密佛

靈智令法久住世

為度末世諸衆生

世間出世利群生

誓首八幡大菩薩

示現神通度衆生

斷除十惡為十善

覆護衆生能與樂

天長五年天下大旱魃也淳和帝の詔を蒙りて六月朔日より一七日
祈雨を修法し終ふ不忽若女龍王八大竜神現して首兩影し
又仁和二年四月十日菅原相道明寺ふ部とて今時安樂寺ふ傳へり
は神童を人柱檀より現れ寶劍を授け今統元安樂寺ふ傳へり
也形人其後後冷泉院清宇示現ありて清廟前の宮殿を改元南へ
去事き所許ありて巖室ふ清修補し終ひ大と小英彦社巖の宮殿
とて又每歲十二月吉日とて諸の山陵へ荷前の宮幣以
て奉り延喜式公事根原等ふ見えり右大將頼朝卿
建久七年ふ社頭伽藍新ふ造営ありて清神領方四十町也

定め北條九代足利十五代相續く頼朝の舊例ふ伊ざら高額と

後冷泉院の清宸翰みく縁起を永享五年孟夏廿日征夷大

將軍大居士兼右近衛大將足利義教公の墨蹟ありて画を土佐

右監光信あり已上社傳成の愚童訓星霜移りて東海の三ノ木栗田

やむる習ひ天正の以平信長朝居四十町の神領と悉く没収せり家

豐大閣の時時貳百石の喜捨あり其後將軍家國初の清時ふ奉貢

等清寄附あり妻の社説不見くされいふ不畧しぬ今ハ鏡水方立所ふ代々將軍御朱印の社領有

當社四季の神事あり三月十四日月夜祭をうけく曲物ふあを入込板ふ同儀あり年中の

水斗何合と知る是社宣の役なり又二月初卯日種々の神供を持て清法あり

檀輶四月八日宮の例系はく車樂二輛出るとふ此を花をのりて笛を鼓を打て

隔年ありて又きり年ハ豫樂ありを支難方南於りあり

放生會例年八月二日より神式始り十四日寅の上刻ふ神樂を興院へ神

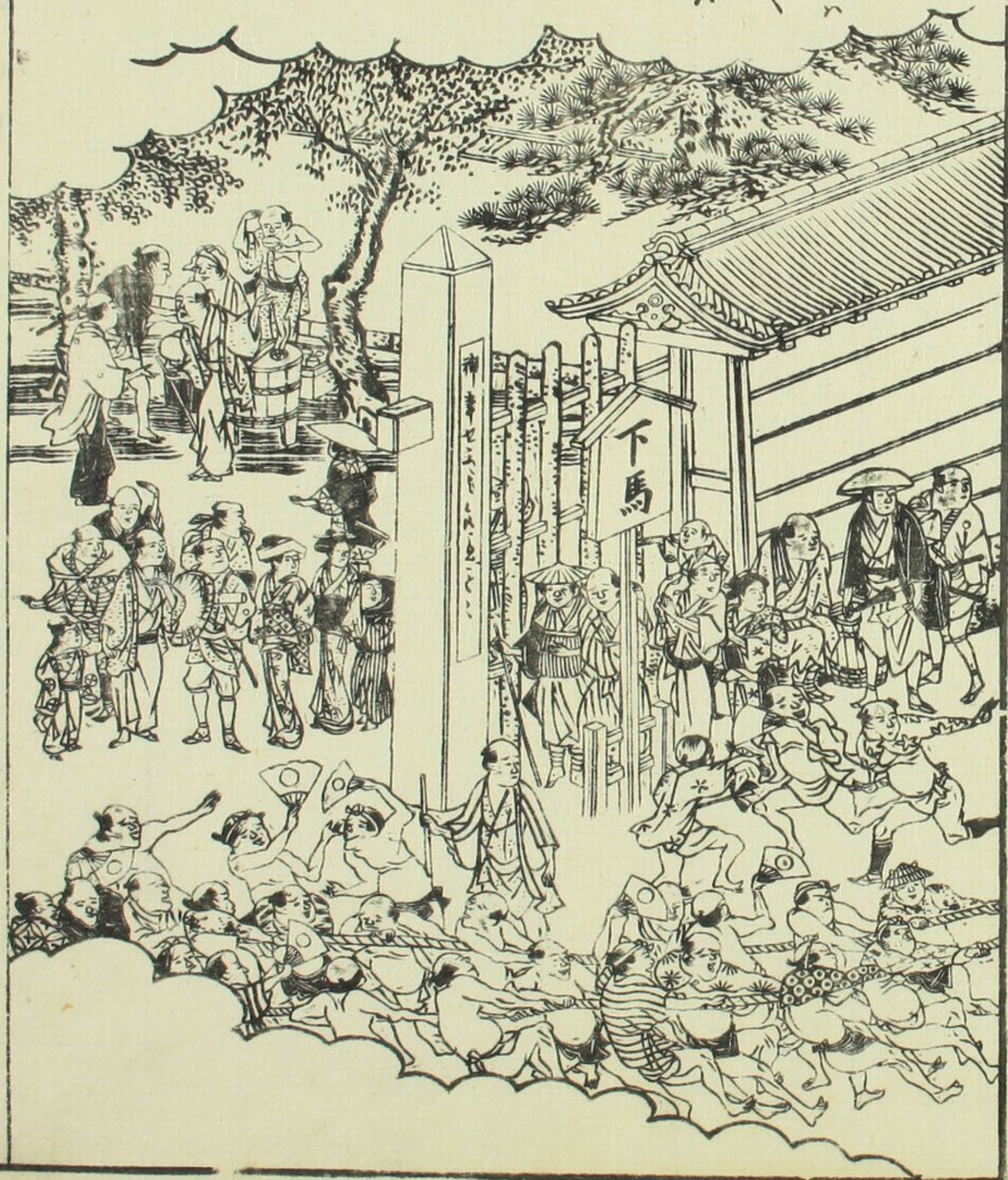
聖十五日半外奉社ふ還清し一守を神供の儀ありて神祕の祭

式社人の守護し神子とて神樂孤奏をむりしき舞樂あり

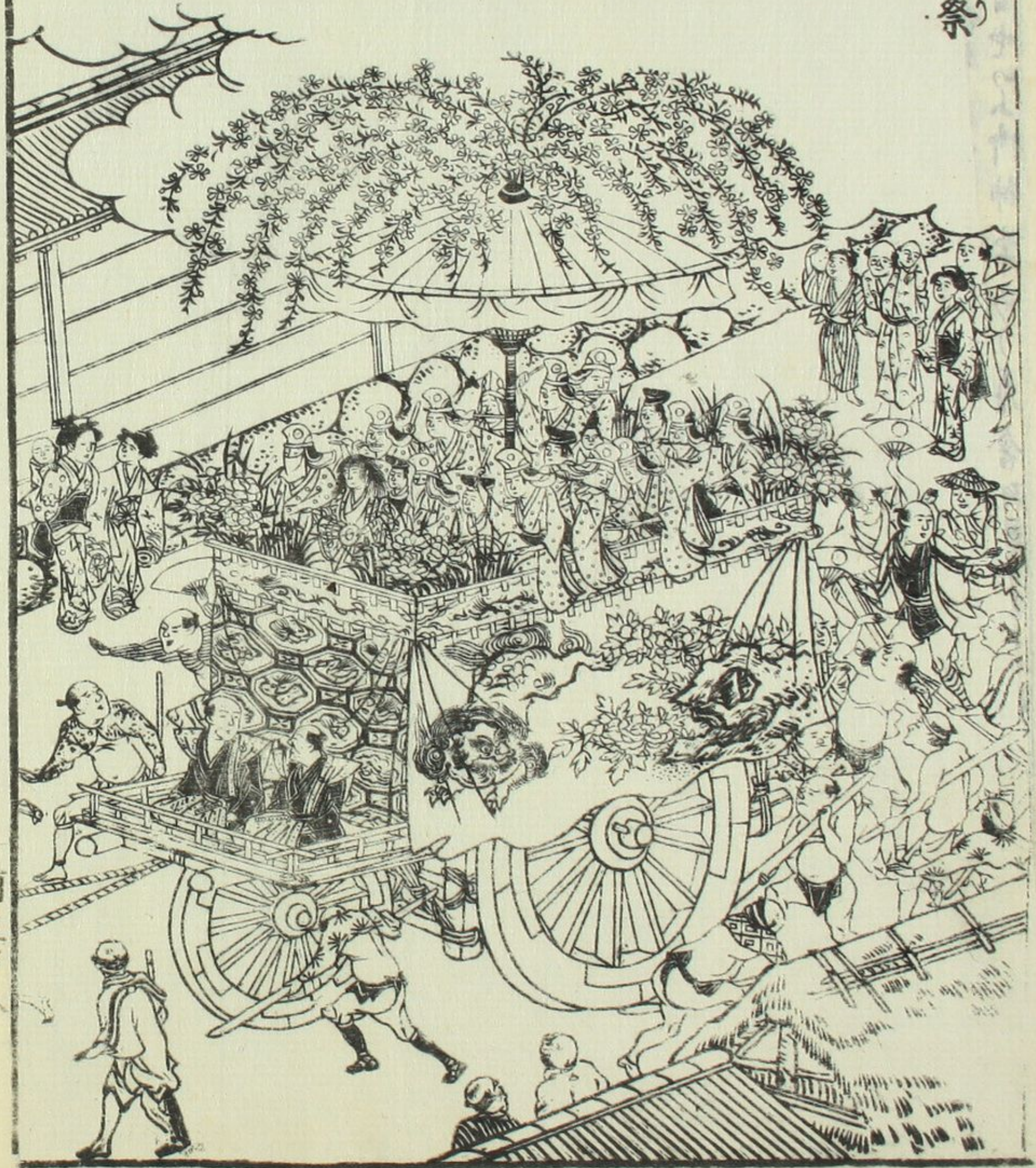
十一月朔卯日宵宮より清湯を持て是神祕の祭式とて十二月十四日

際越日中より清神奉あり産舎孤務の取をて清神領方四十町也

えんご だんご
 奉田の車樂ハ
 古風あり
 外の囃子
 遠くこれ
 だんごの
 踊り
 と
 名



こんご
 奉田例祭
 車樂



河三ノ八

譽田宮神寶

額後冷泉院當社傳記調書足利六代將軍晉光院義教會之

後西院神時因表當社傳記土佐持監光信奉人皇百十二代帝

神馬鞍御劍御鉞御鏡御子

御子以上佳吉より傳りて

大太刀栗田口藤馬允利劍大徳太子納曾利面聖徳太子

庭幡龍頭足利十代義隆書狀數通豐臣秀吉公

堆朱盆秀忠雪月花一軸山姥面家光公

散手一面二彝二面貴徳一面天童一面覺圓一面陵王一面

退走徳一面還城樂一面退宿徳四面鐘一面鐘一面

翁面乙御前三箇月面驚繪帝鐘一面鐘一面

百馬画趙子昂花亭書畫明軍鑑大星

神功皇后尊影酒井真人應神天皇法徳任君太刀永井伊賀守大の朝

五色鏡水晶三角水鏡一面花生一瓶青磁香爐新圖

五卷大橋哥儂歌尊通親王自在王菩薩影空海佛舍利佛舍利

重政筆五銚三銚獨銚閻浮檀金如意輪八

般若經弘法紺紙金泥法華經天浦大神愛深明王弘法大師

三尊種子曼荼羅中將不動明王智證大師兩界曼荼羅理源大師

釋迦羅漢宋朝僧涅槃像古法眼弘法大師影真如觀三

納袈裟高屋城主尾張守寄進

石の外神寶多とくともく小晴と又傳來の神書寶庫にありは借

興院寶器

大自在王菩薩尊影聖徳太子佛舍利一粒釋尊十六善神

興正菩薩影自作十六羅漢住僧教也書翰二通秀吉公

地蔵尊 本堂小安堂に菅野相の淨化長尺三寸

觀音堂 本堂の東にあり安河孫の作也正觀多安尺

塔 本堂の東にあり尺三寸

明星水 鑄其の末にあり真樹の古礎小都を

欽明天皇十三年冬十月百濟國聖明王釋迦の金像幡蓋

經論若干紙將奉呈て帝に獻して曰文佛法と申ハ諸法を

中ハ最殊勝の道あり周公孔子も奥意公悟る事能はざる群生

と利して功德無量之初天皇より知く震且を流通し三韓も亦

崇仰 天皇され伏獻聞有て即歡喜踊躍し如是微妙の法を朕

いま若く聞は侍臣獲我大臣福同宿祿奏達して云今西蕃を

諸邦みかこむ公禮し我朝獨尊これ小背んか帝小同意し

なれも其時物部大連尾與中臣連孫子議奏して曰これ我

國家の天下と天神地祇百八十神汝四時小お祭りて守護しん

人代小速んで一千有餘年異國の法を修せしめて國家清平

たる事萬國も勝たり今更西蕃の神公祭祭しわら忍く

我國神の怒ありん中遮く奏達しこれを天皇佛像と福同宿祿

賜し獲我大臣折悦して小墾田家小安堂し其後向原の館を寺と

名して向原寺と号し已上 日幸祀年家積りて 聖武帝の清寧西大

寺の監真和尚より公修補し又弘法大師もくく止棲し其

其後建長六年の基又西大寺興正菩薩再興して律宗の法則を

かきり昔日と封境底大少して七堂伽藍僧坊魏々寺産卅六町

あり喬園小入りり中古駿播の患小罹り今めこれ移令中

貯る寺小弘安四年の大政官符あり又興國年中に國室教章弘

安應永年同將家乃預文文永中の流記教通藏む其外竹實

教種ありり小果寺説元亨釋書小

玉碗南山の竹實之豆四寸深サ寸八歩巡り庵一面小星のてく

連系玉性分ありはこも今より八十年前洪叔の時

觀天宮陵之土砂崩出落く其中より木など多く出てこり小石もよく
出るとなり其地を村内田中何某やの農家の持地なり當ち小藏心

太政官符正

大藏官牒河内國西琳寺

已下全文省畧據要文

雜事卷箇條

一應停止四至內殺生事

四至

東限飛鳥庄

依為太子御廟四至內
下官符被止殺生

南限岐子庄

依為山門西塔
往代禁斷殺生

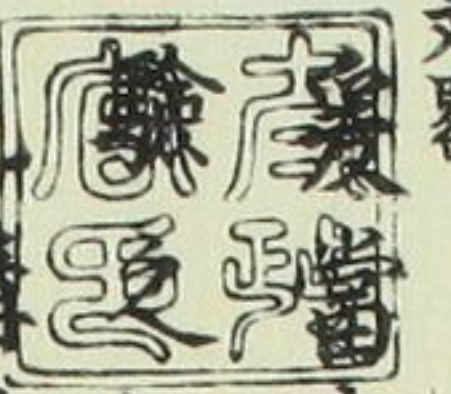
西限尺度庄

依為根本法花堂領
往代禁斷殺生

北限譽田陵

依為大菩薩聖廟
下官符被止殺生

上文畧



寺者欽明桓武兩朝之御願舍那彌陀靈
仁祠也草創年舊先於天王寺三十箇廻
花構猶新不侵風火水七百餘歲古今奇瑞不

河三ノ十二

可勝計其中女人入金堂之時地忽破裂盜賊
偷銅像之夜天變白晝勝絕之趣翰墨難摹
律成群三衣一鉢之支維之行業積年天長地
久之勤無怠加之西多青塚皆為上古帝后之
陵廟南有靈岫則留聖德之芳骨旁見地勢不
便殺戮矧乎寺邊二里之殺生者聖主累代之
禁遏哉因茲且任上宮之記文依知識之誘引
士民同心惟停殺生推門之後都不釵用或
諸廟而為將獲之場或上一河而為釣漁之
無漸之至何不炳誠登請聖斷永停止四至內
殺生之旨被下者弥仰聖化奉祈寶祚者
正位行大納言源朝臣定實宣奉勅依請者

弘安四年五月廿六日

弘安者鎌倉將軍惟康親王之時也全非大内裏之時
此外二箇條之官符二通畧之同年號也

惠尔我市 又會我...

頭宗紀曰 賜吾常世等壽...

惠我川 石川の一名...

安閑天皇陵 古市の南高屋...

春日山田皇墓 安閑天皇の南小降...

高屋神社 古市古津浦邑...

高屋古城 石像の不動尊...

家臣... 仁記... 久秀...

寶壽寺 西浦村小あり...

清寧天皇陵 日村小あり...

清寧記曰 白髮武廣國...

大泊瀬 白髮天皇...

白鳥陵 野村小あり...

利雁神社 西坂田村...

戸前池 蔵内村小あり...

井德院 又聖德王...

碓井 碓井村小あり...



元寄跡と
 跡入り
 切の真如
 友とやらふ
 おくはとらふ

新島

本堂

水手

駒谷
 金剛輪寺



目録

水手

水手

水手

河三十四

駒谷 駒谷村古市(新八町)にて後述より大和街道竹内峠
駒谷村古市(新八町)にて後述より大和街道竹内峠

駒谷村古市(新八町)にて後述より大和街道竹内峠
駒谷村古市(新八町)にて後述より大和街道竹内峠

社 本神社 二座並名神大月次新嘗

司書内藏寮式日
備幣物等使等進發幣物并使裝束見式

延喜式云
今の杜本神社と云は是なり其末永くは地不主として弘仁
の頃矢也忌す申之姓氏録ふも記されり

貞觀元年正月廿七日奉授河内國社本神正
四位下

四月上申日河内國小侍杜本神社の事之日使
仁和五年四月小糸ふり

十六山金剛輪寺 駒谷山中にあり安養院中碑に

本尊釋迦佛 長尺五寸藥師佛 辨財天女俱小聖德王の

十一面觀音 補正戒の念持佛にして赤坂院の時靈驗公
のひ我死の後息行所持の經卷并ふ未奉記の

寫一孤跡く高院ふね心年歴く天正の兵火に罹り
神佛閣とく他境へ遷移ふは親世青一作見へあり久しく
寶を負く地境へ遷移ふは親世青一作見へあり久しく
星霜をわらふ高久の頃任傍春惠阿闍梨村老と傳ふ
同靈をわらふ高久の頃任傍春惠阿闍梨村老と傳ふ

教獲ふ山に下らば後醍醐天皇不遊不遊りて古蹟を教獲とて教は教獲ふ山に下らば

夫此山寺古刹なりて中須兵燹の災此後の僅の丈室維摩
可居小比一多十笏成得り常小幽名を帯て禪窟を
せり山水月小和して僧厨小入寂莫く鐘磬の音を
孤避く三業を貫た顯密の日明け長閑なりて十住心花を
匂ひ鮮くひりて子麻戸驛の駒小御して四海を光り
見傳ふ小比地場雲漢くゆくて立界は是靈域こそ
蒙りて梵岡公創し輝く十六山安養院とて蓋此やとわふ
帝王后妃の陵墓累々ゆくて四々双づり周是山驛は時の
人と迫り飛鳥の津寺とも堂はとめや年暮法を契く
後醍醐帝は御宇世上秘するされば天下清平御務乃た
衣御製公藏免ゆ小南朝 後村上院より金剛輪寺也勅し
乃に於津國曹彦公寄る繪有圖宣も傳へ二條為明卿の

秋書もありありと冠仍上人の肖像餘外什寶奇物教く傳ふ
寺前小麻永手墓清少納言北古墳棟正成塔あり風景を東
ふてよるれ飛鳥里近く前小と淵の瀬あり飛鳥川乃年の激
巻くまきと暮と曙やゆく小嶺の松の影の梅匂ひ香を
清く西小石川の流涼しく夏をよ侍若飛く小景乃陰あり
郭公名一聲成曉の月小侍傳ひ又秋の野原と風を凜々
吹もりんく也鳴つて夕暮空く秋候女郎花みづるを
松うごたぬさりて此暮をよもあられぬる香深く欄中
大母よりて観念の便ありありと志ありけりと景室の
沈佳期が咏し居紅樓院もいつ屋こそあり
棟正成塔 後醍醐天皇の御記に於て景室造立の刻に支族和国に遠く
一橋を智達公沖寺内母の系孫をよる小橋を判官辰中陰に
今少おぬれ就支於寺の碑お建りて名を息沙活なりと傳ふ

十六山家藏之品々

日谷稚宮之碑

豎長尺五寸 橫八寸

腹

瑞齒別天皇

伊波別命

袁登賣命

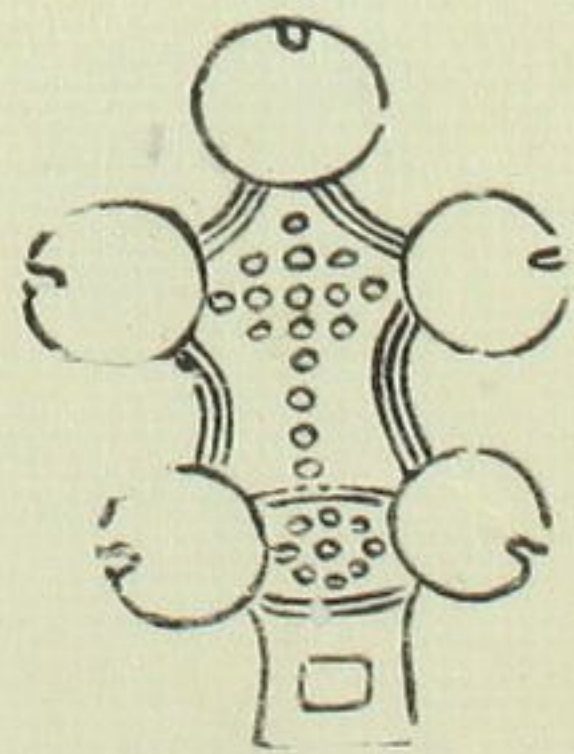
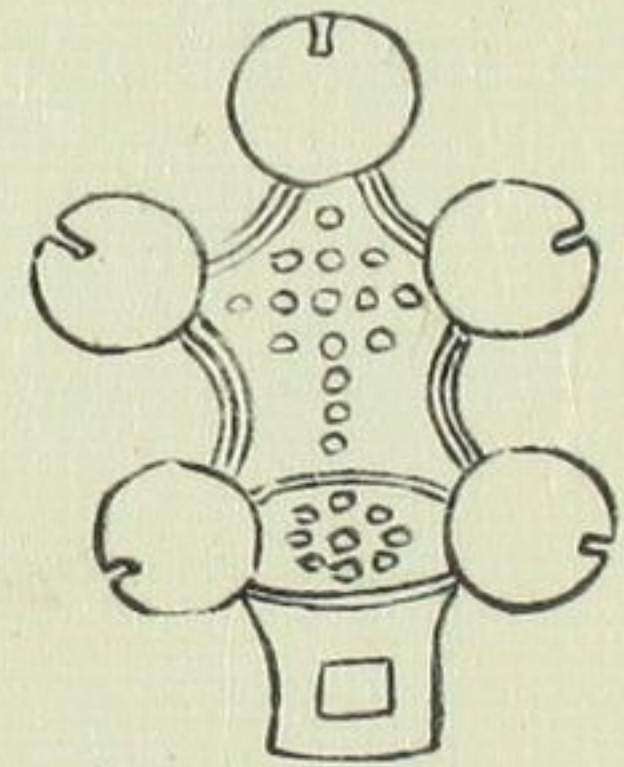
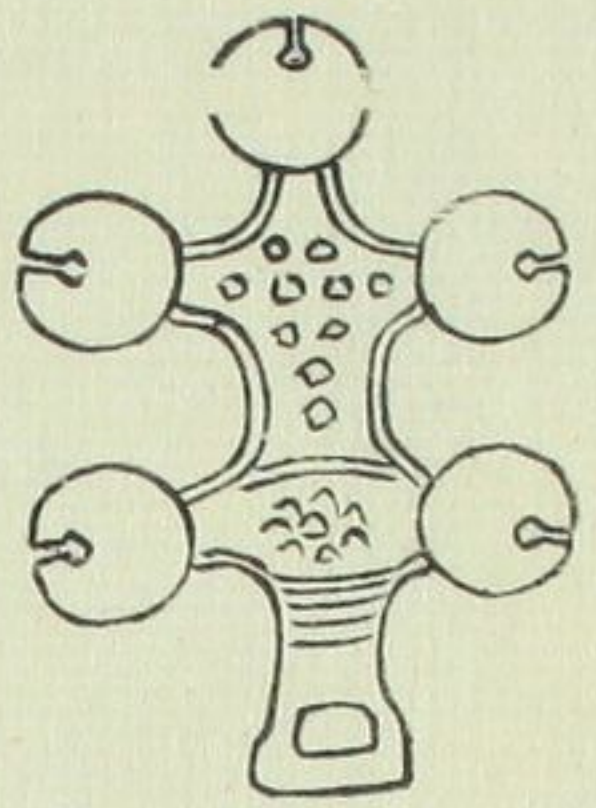
背

維日谷稚宮者

反正天皇一夜

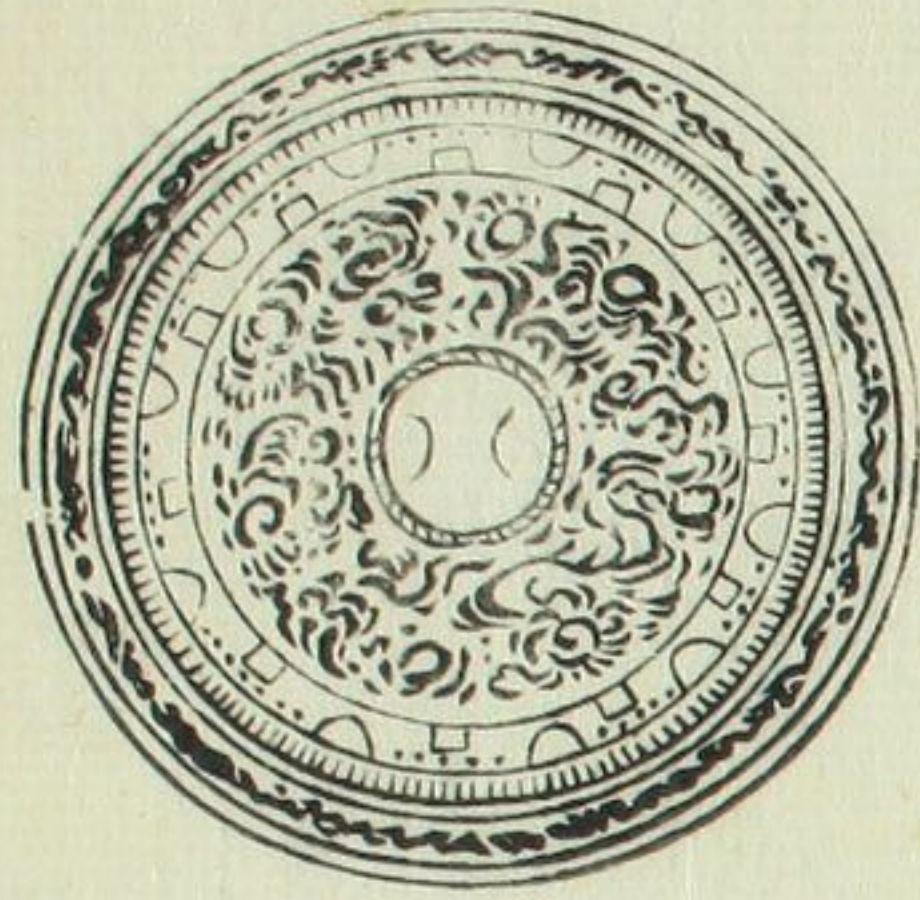
被禊之旧蹟也

古鈴之圖



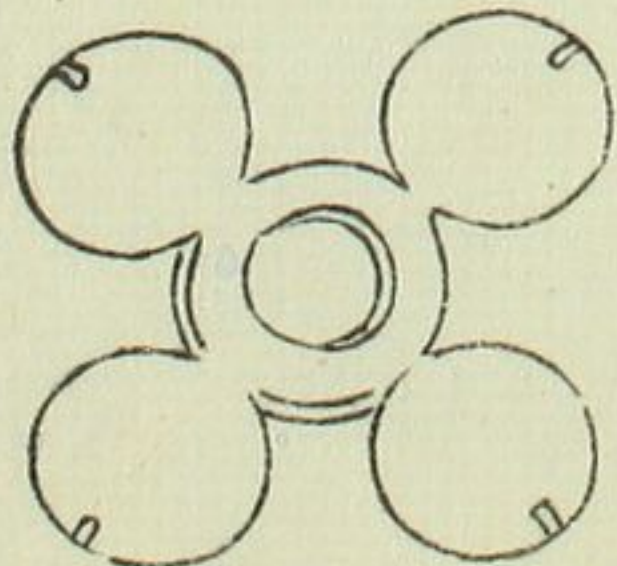
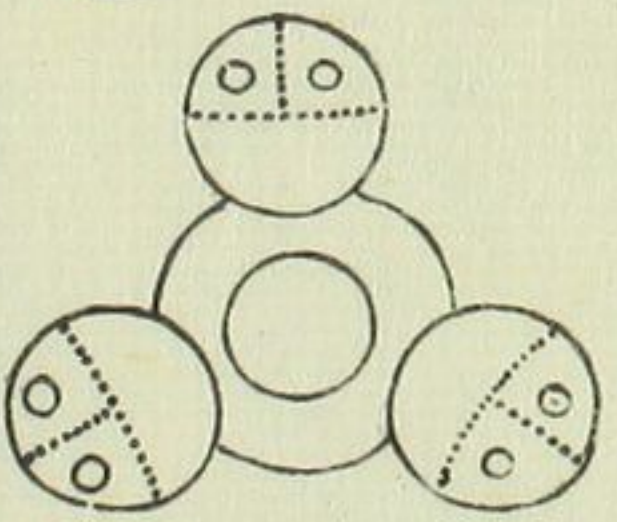
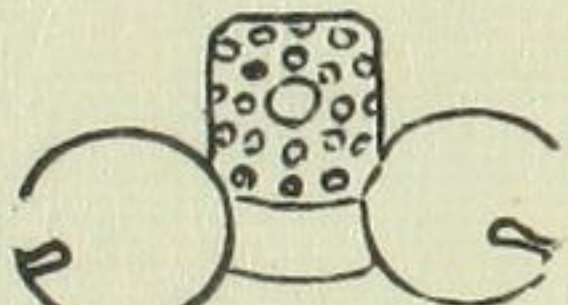
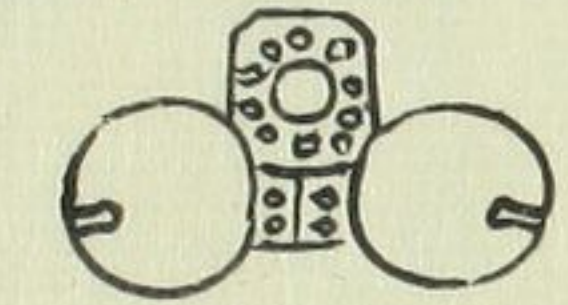
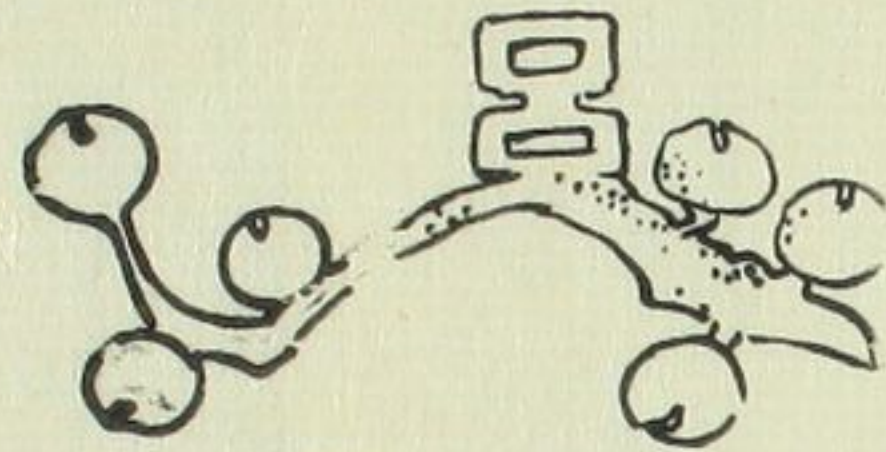
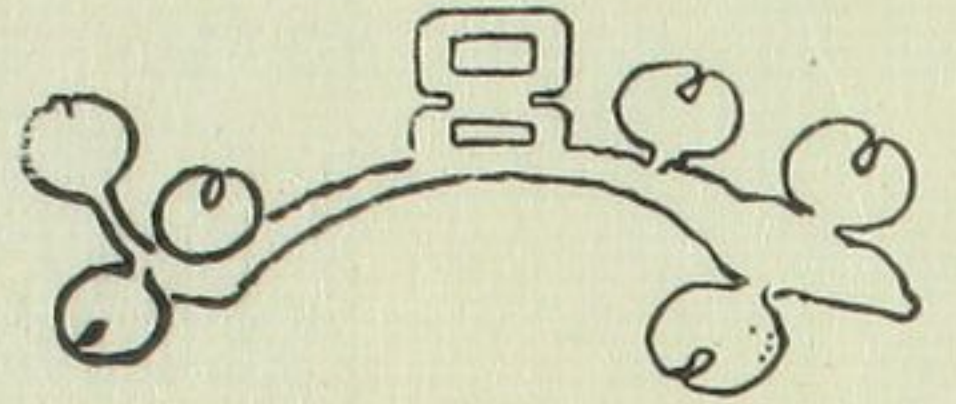
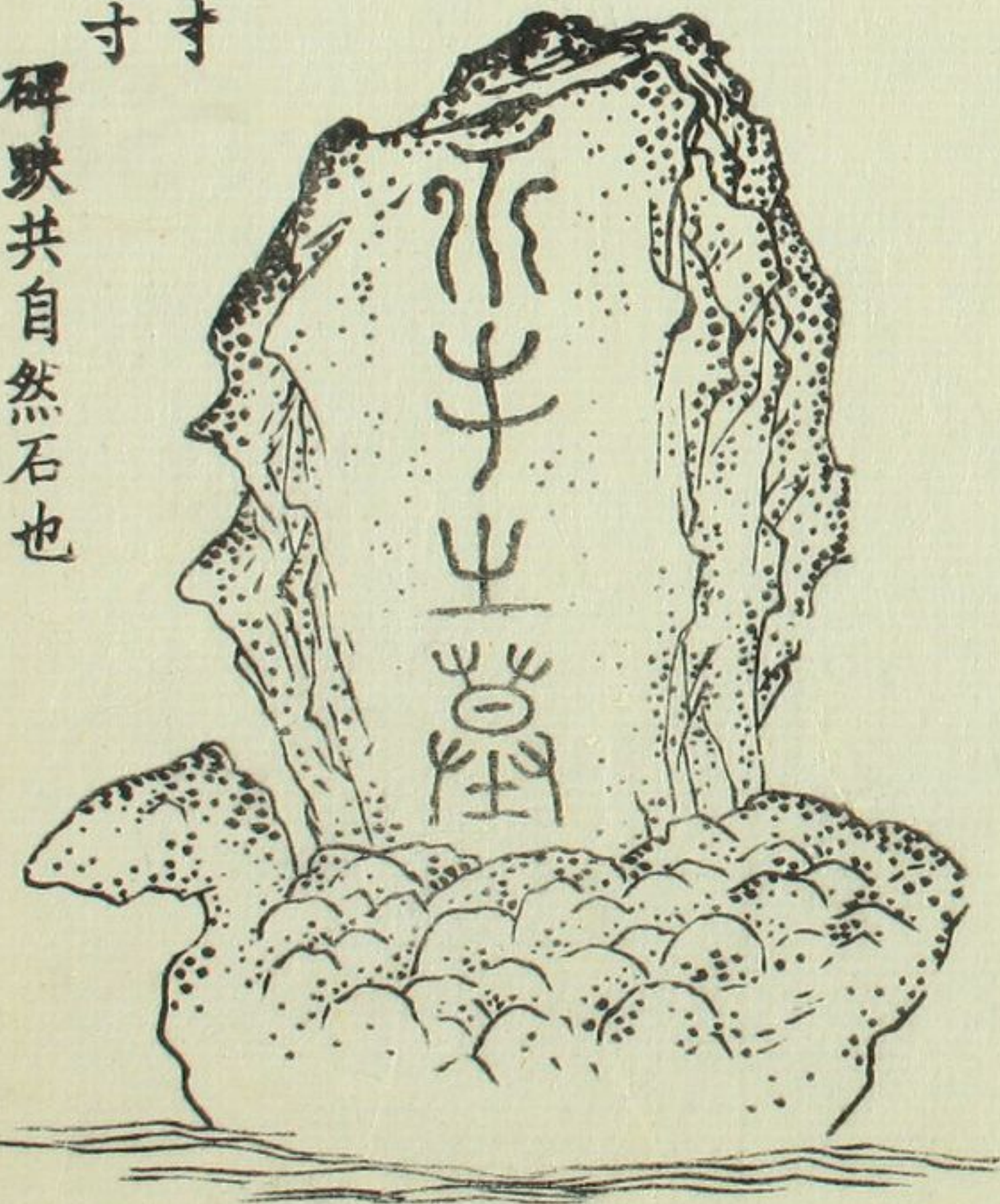
河三十八

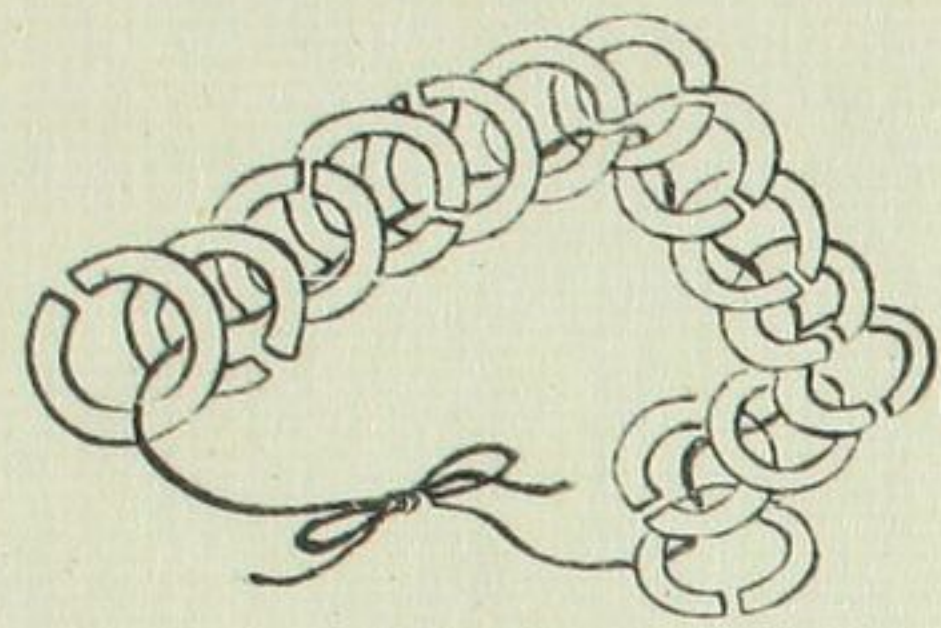
古鏡



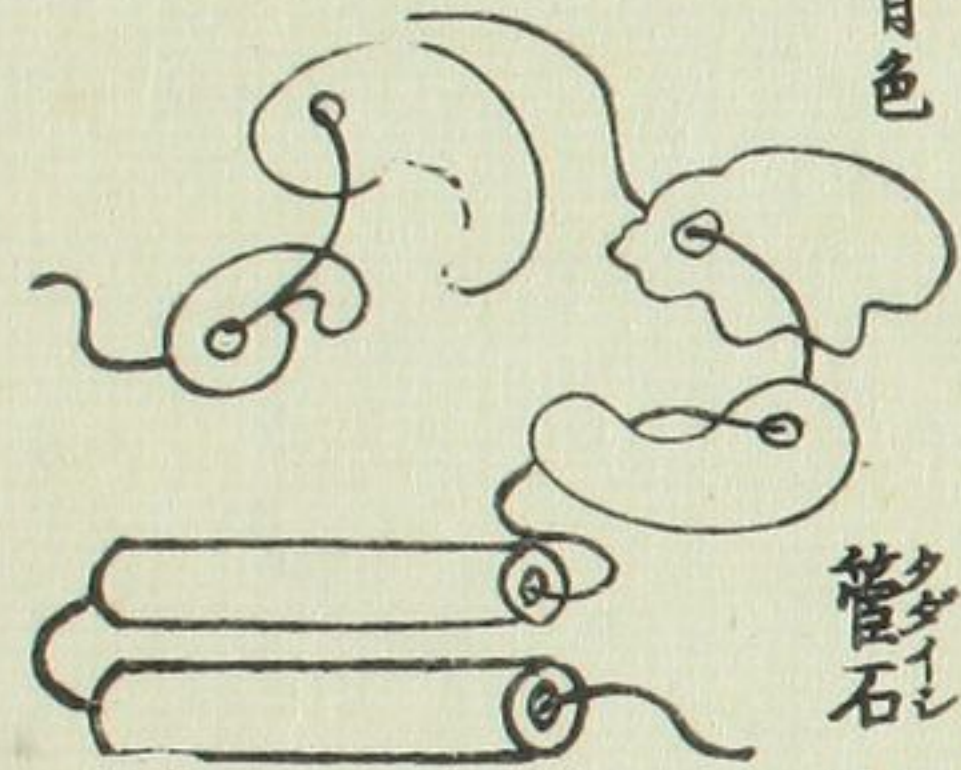
高二尺二寸
橫三尺八寸

碑狀共自然石也



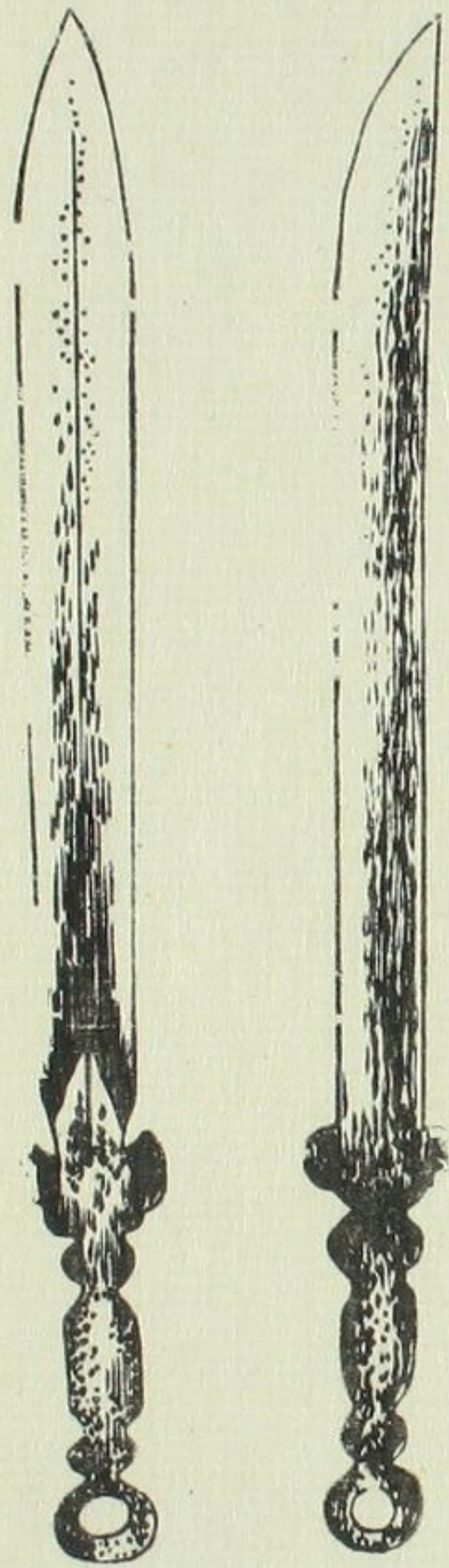
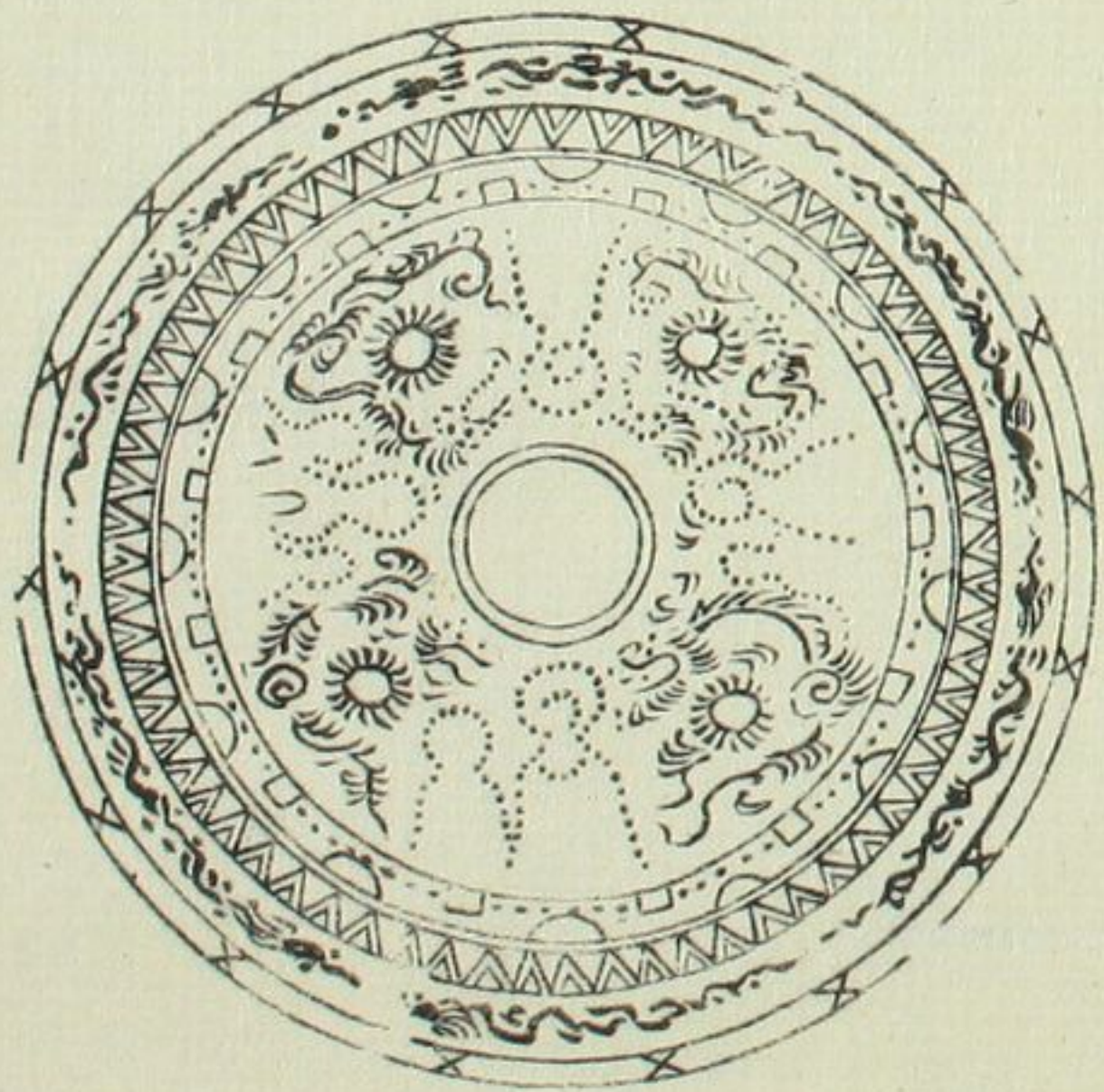


金環十五个 徑七八分

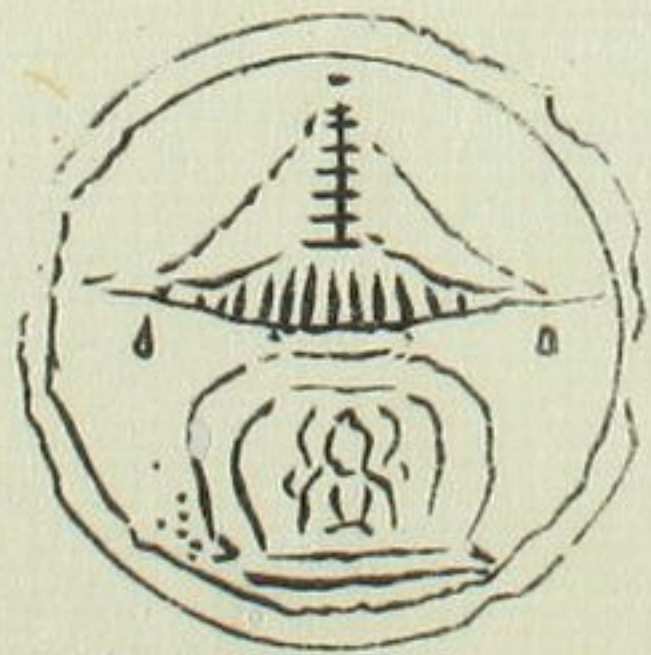


釵玉七个 管石七个

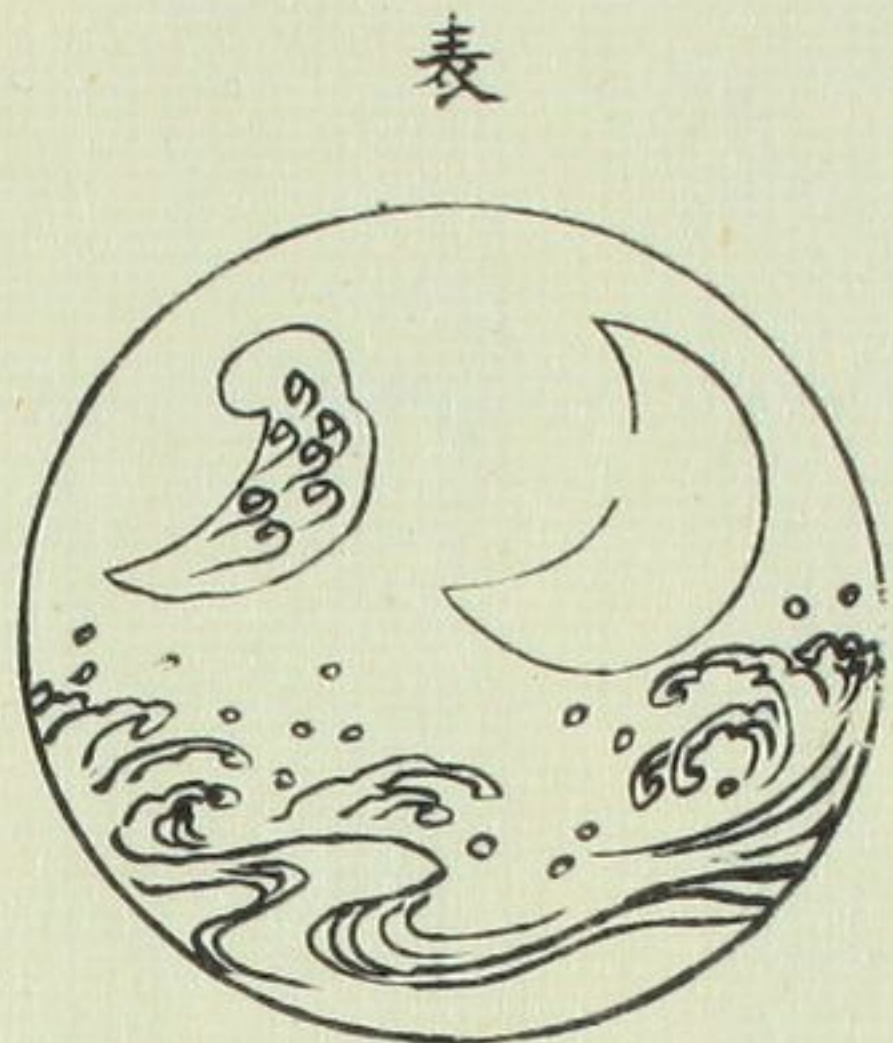
古鏡二面有 長八寸



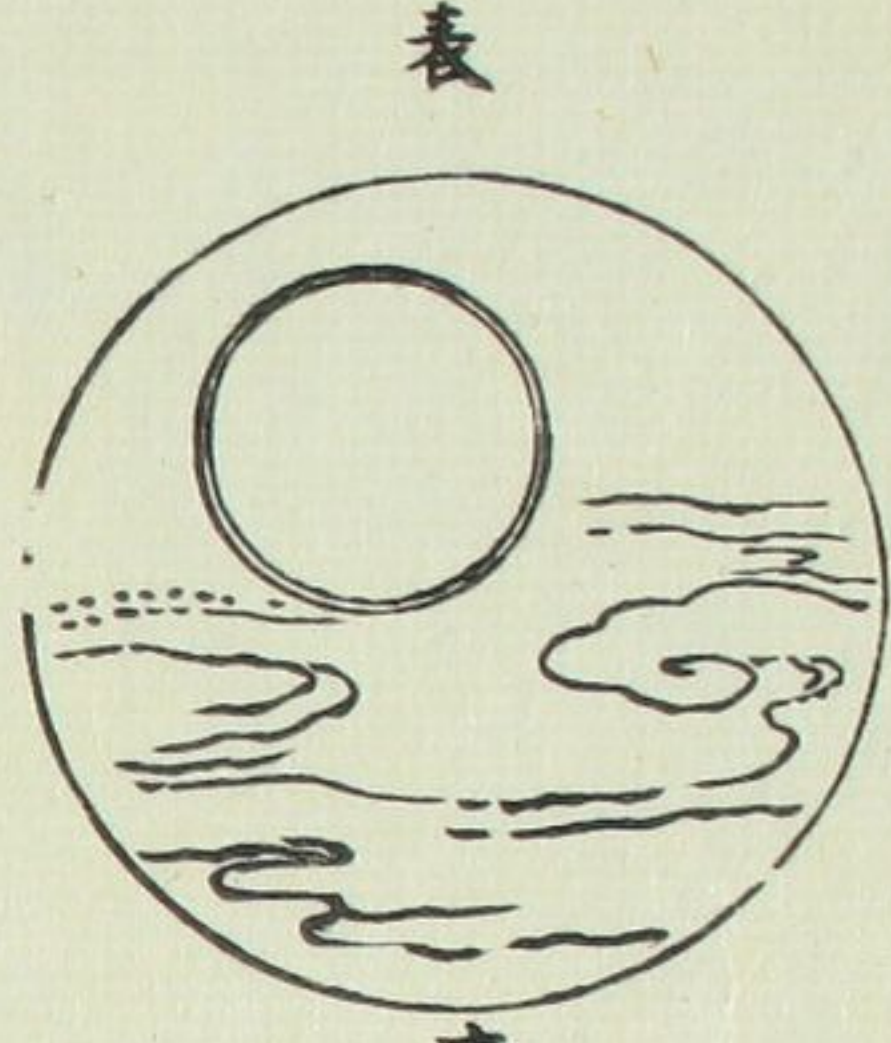
節霧 各長壹尺七寸六分半



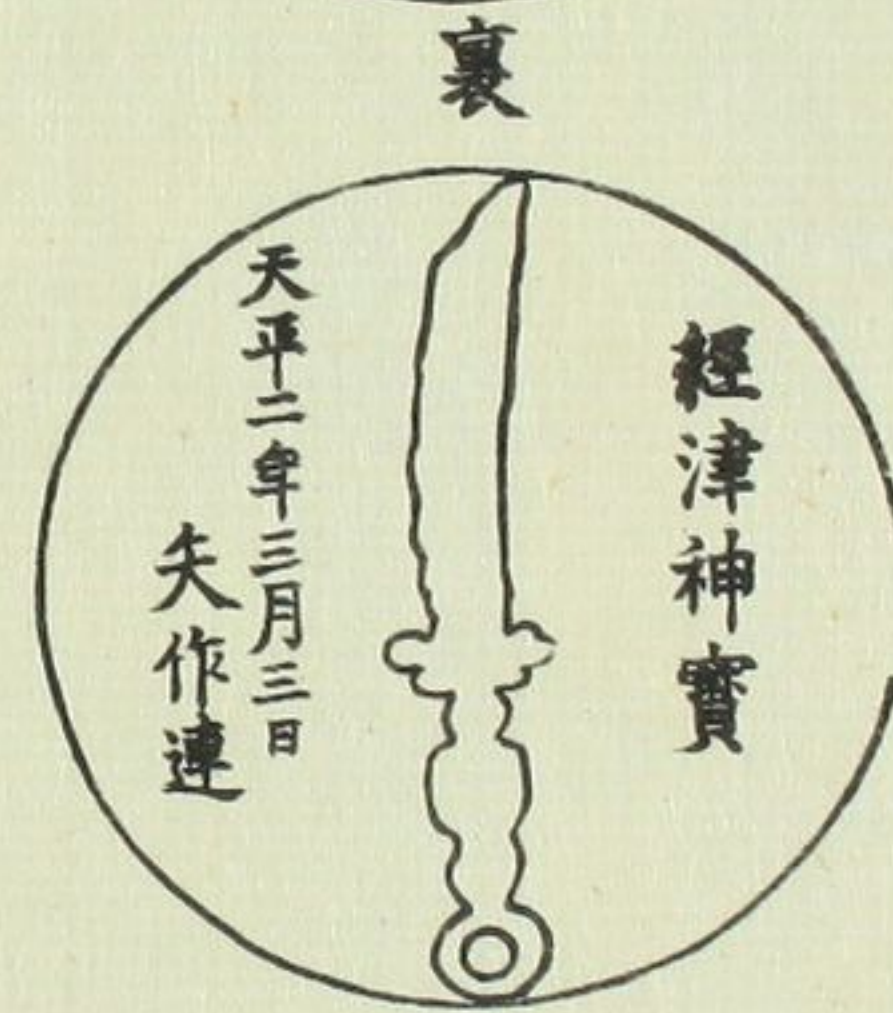
其二 五鏡 徑七寸九分



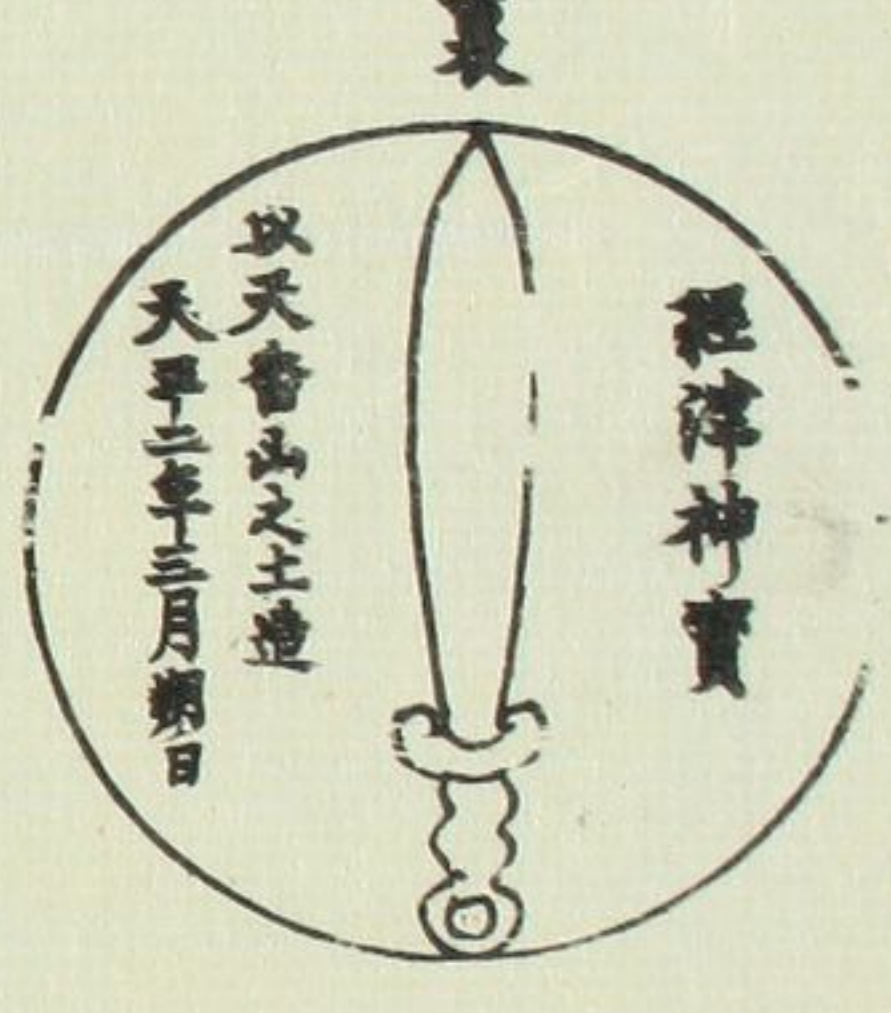
表



表



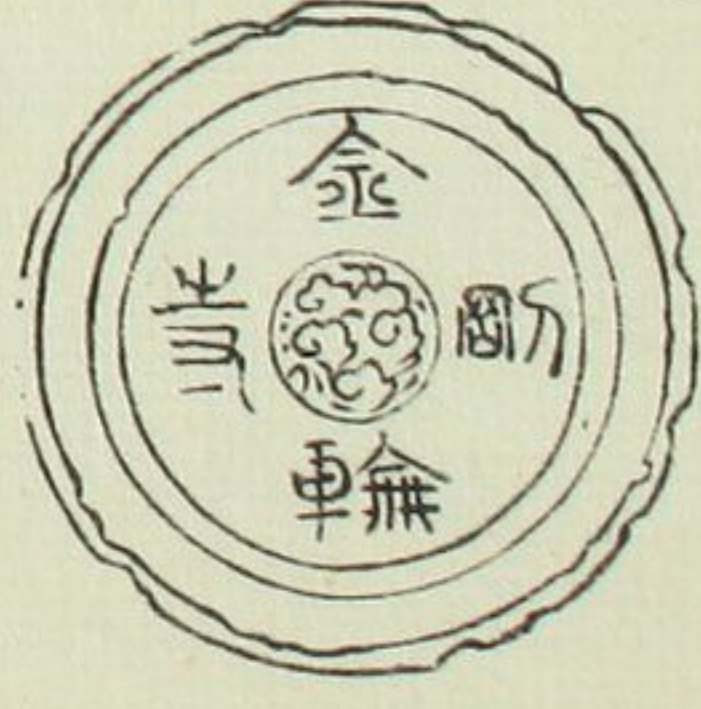
裏

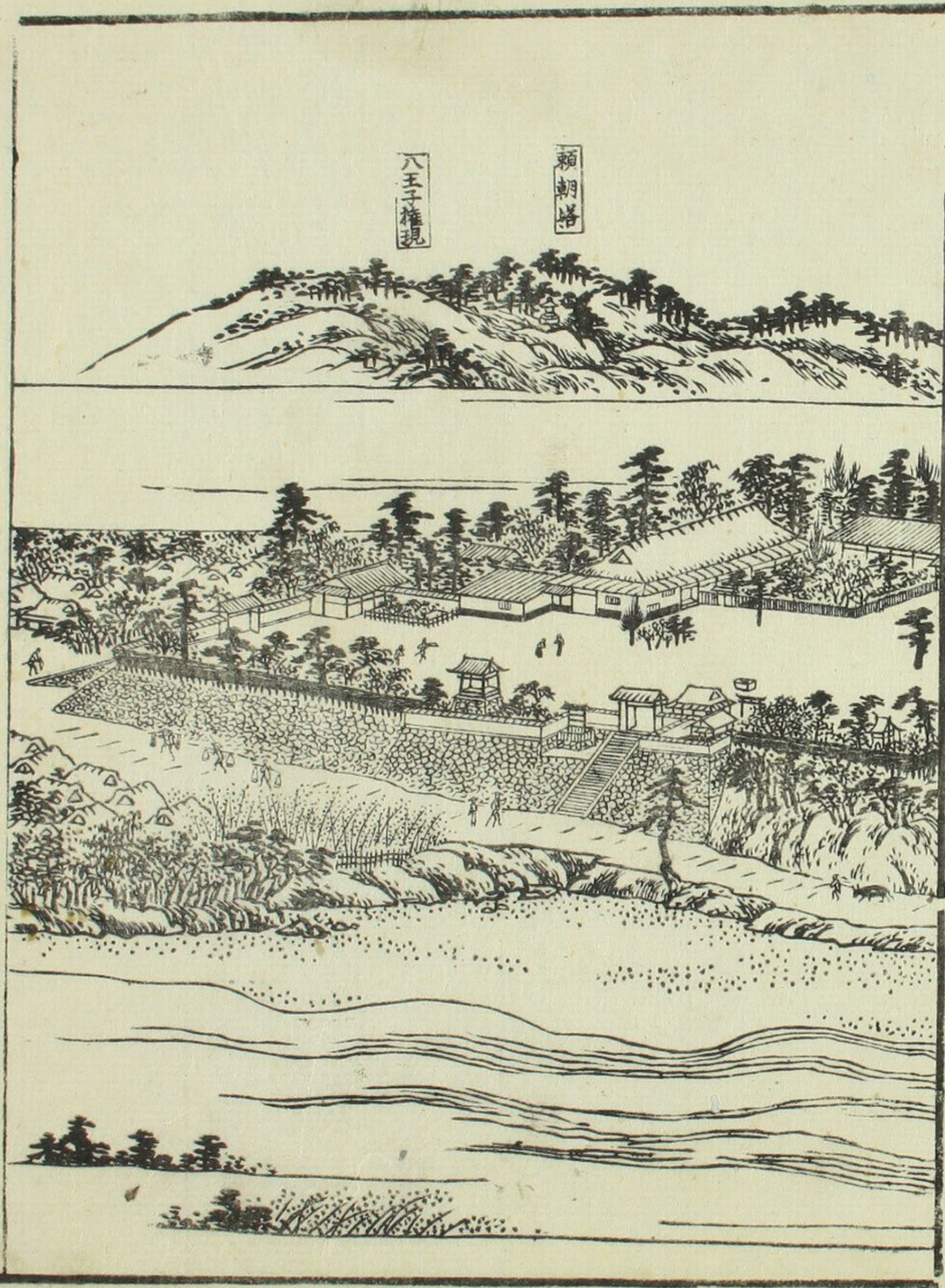


裏

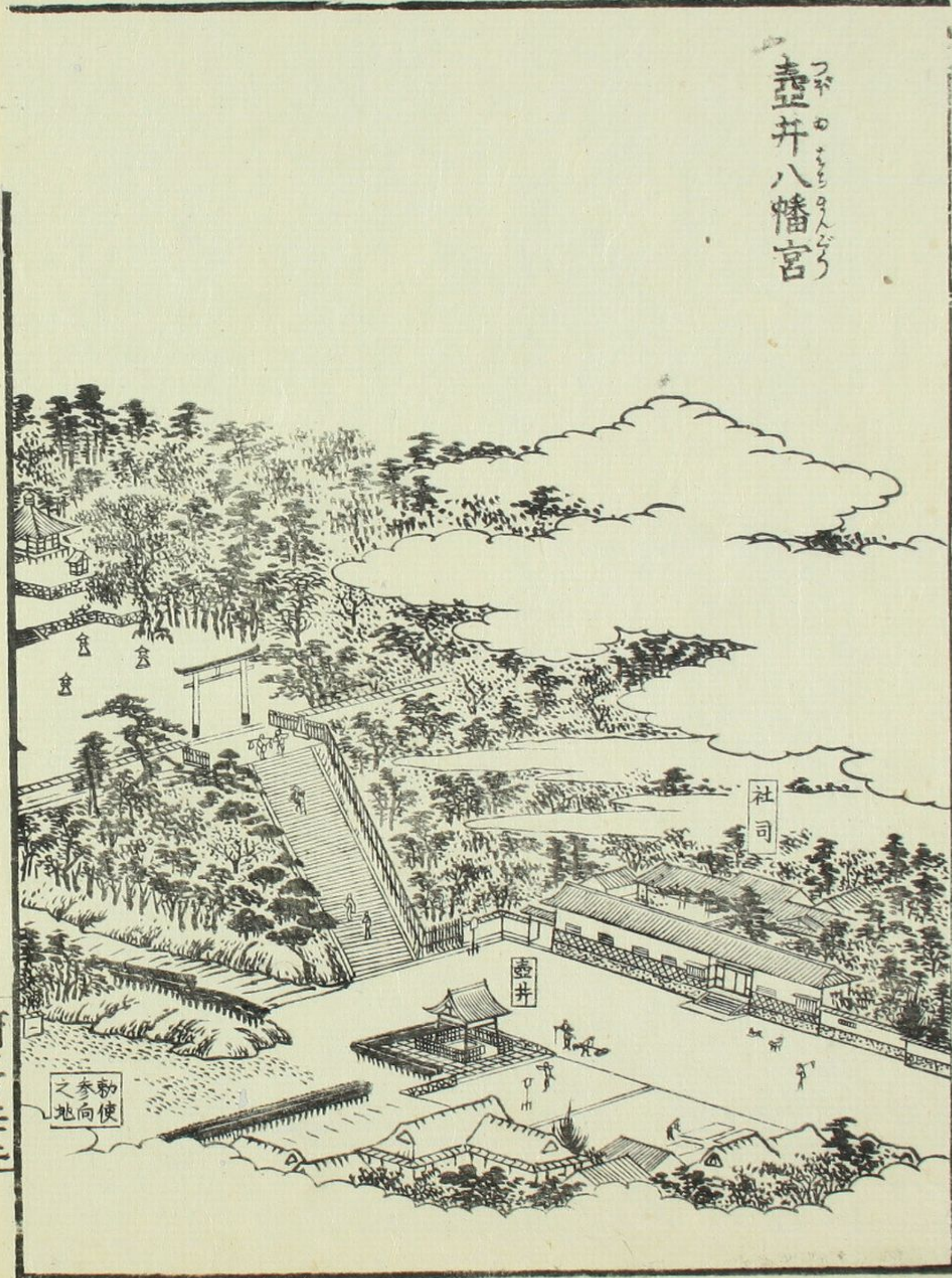
布目有

古瓦四品



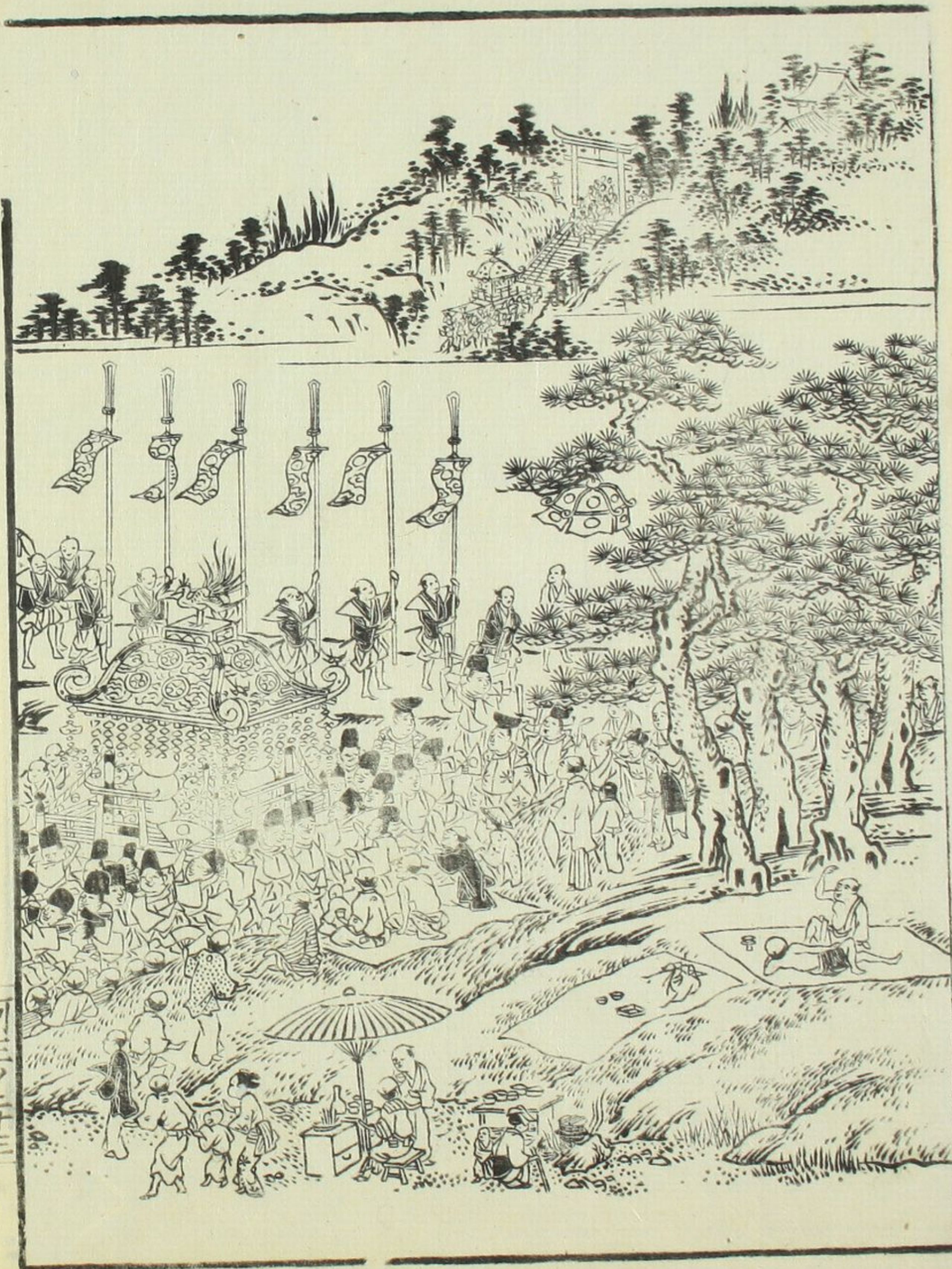


河三ノ千



河三ノ二十三

壺井
例祭



當社の例系と誕生二日午の御みく神樂二基津旅所(波津あり)初ふの被獲田産神八本の鉾三張の弓矢を刀鏡金蓋三柄神供の厨櫃供奉の社勢と子樂ふ素く歳宮ふ列を亂し其外社家のみんく神樂乙女神人官仕等前後供事し石川河原の芝生に四阿屋敷志門らひ是と津旅所よりてまゝわたりし年よりて洪水あふよりて延享年中より神社の西の方義家公津廟のわたりに及ぶ原此地と源家三代武將志居城ありて河内列之任國之故に八幡宮が勸告し三代の墳塋も近隣ふ有又むり化輪寺より津剱ありこれを頼義公奥州征伐の時故身方亡年故退後のはふ建られ奉る不慈覺大降の化ゆ阿弥陀佛と安んじ後世處寺を形りて化輪寺菽金堂之かや圃の字を形りぬ御奉るを蔵しより壺井の什寶と形りぬよきみか一雙の地ありて源家の領也見えたり後世いれくやわたりて麻姑の桑海を見ゆふ等し

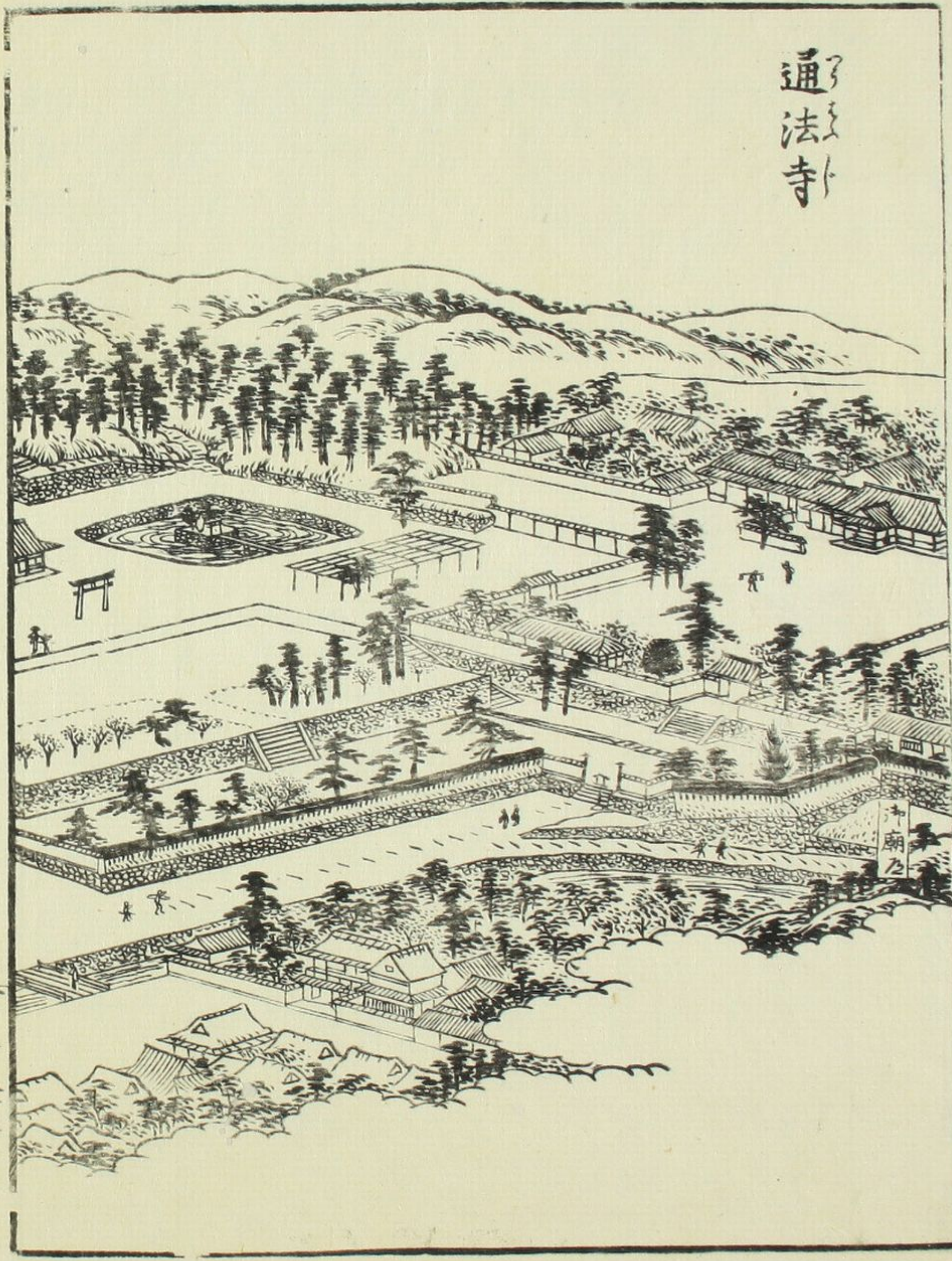
石丸山通法寺

通法寺村あり宗旨真言新義和別長谷寺不属

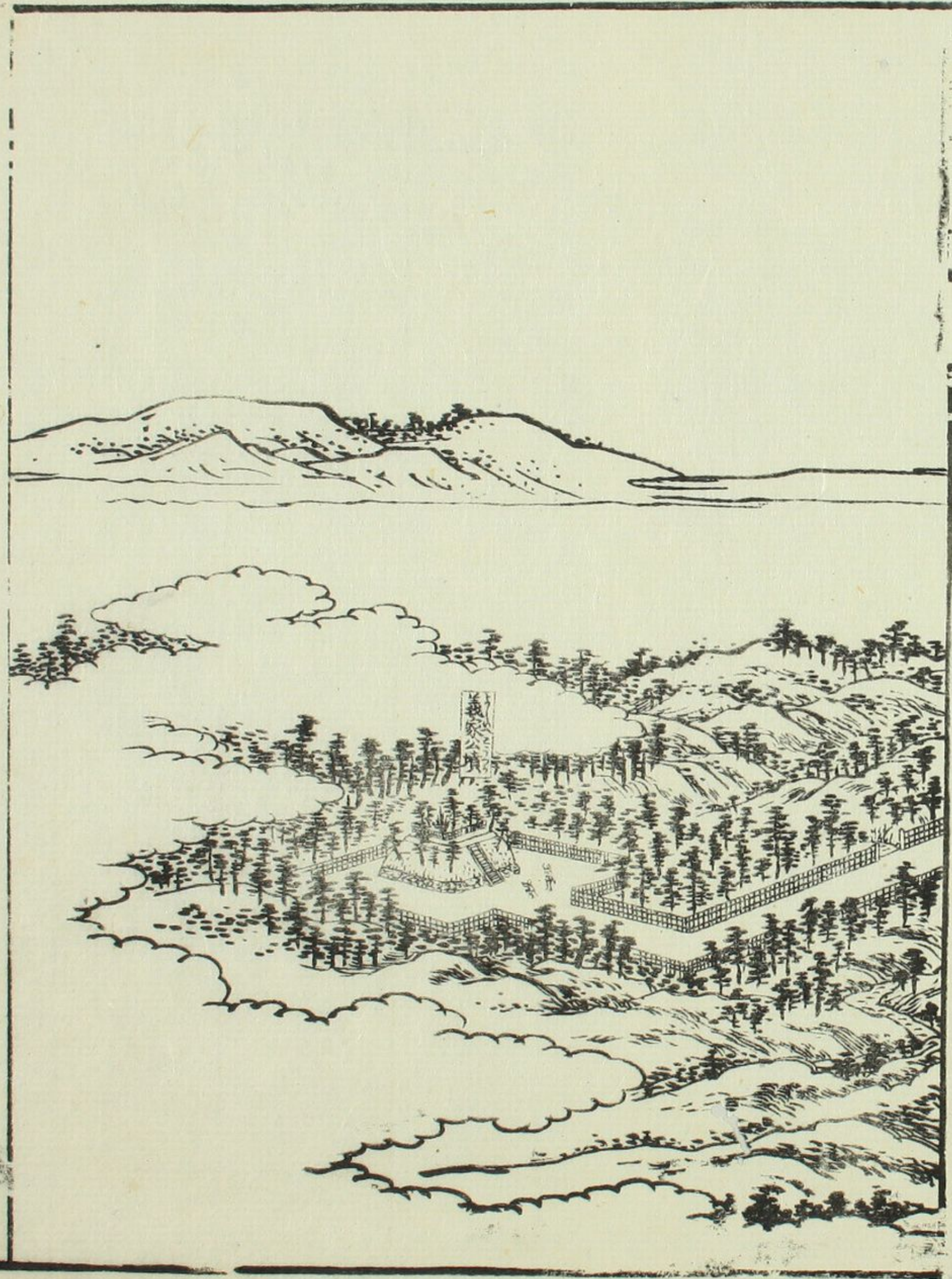
奉る阿弥陀佛 觀者勢至の三尊冠輦也 長二尺許 奉堂ふ安んじ 不動尊 長六尺 十一面觀音 長六尺餘 右の尊像元禄年中 常憲院殿津寄附 觀音堂 奉る千手觀音長五尺五寸許 源頼義公感得 又ふ子親者令洞佛あり 頼義公甲の内ふ安んじの蓋そ之 鎮守 天照左神 八幡 上ノ社 楠若ふあり 榎坂 辨天 當山法會七月十七日十八日 頼義公魂舎 觀者堂の中 頼信公墳 奉堂の巽 義家公墳 頼信公墳よりを所并 當山と初河内守源頼信公の館舎形り長子頼義公相傳りてうふ居候し終ふ終ふ此地の東北ふ仁海上人の舊跡ありて仁海若と名ふある時其谷より光明赫々して諸人奇異の心ひ瓜るは頼義公靈光の原を尋ひ終ひ一丈之悲の靈像傳りし其則長久二年九月ふ感得し終ひく嶽中ふ一字此精舎が建營りて通法寺中碑を此所ふ終りく八幡を即義家公賀茂次郎新羅



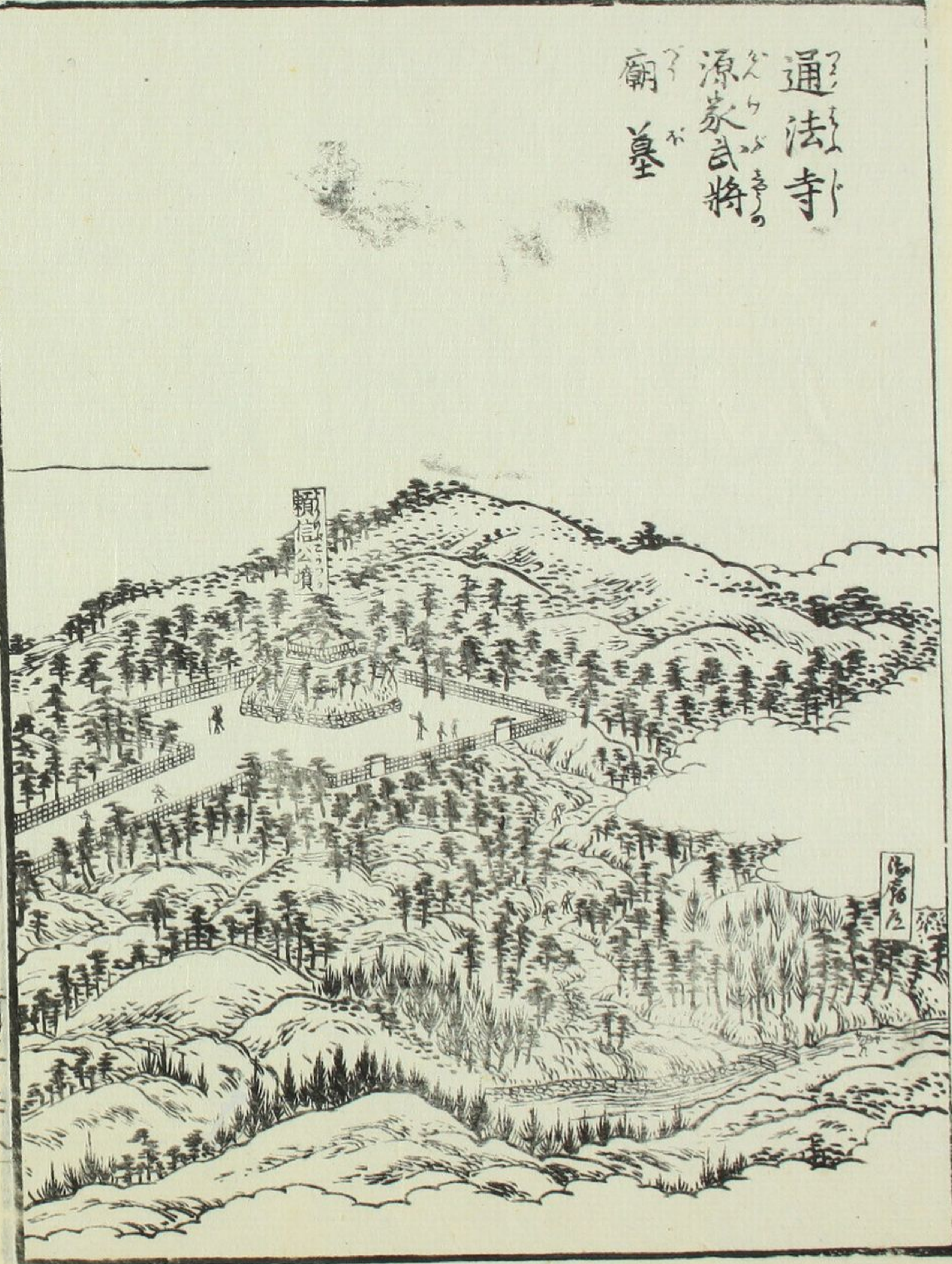
通法寺



河三ノ二十七



通法寺
源家武將
廟墓



河三ノ千八

五 手山安福寺

尾張村小あり浄土宗真宗此

本尊阿彌陀佛

惠心傍都他座像長丈六

瑞龍院殿

二品前亞相天蓮社順譽源正大居士

神の御座尾列と

尾張大納言光友卿

經堂

寶冠弥勒を安ん

龍眼肉樹

境内にあり

壽世堂

山頭あり

行者堂

又令洞の虚空藏を安ん

國見丘

赤石の絶勝の地く西の方と難波の萬戸所或川遊々

源人

赤石の絶勝の地く西の方と難波の萬戸所或川遊々

船之松

曼陀羅堂 曼陀羅堂 曼陀羅堂

尾州御廟

彌陀のゆかり 曼陀羅堂

開山堂

開山御廟 曼陀羅堂

鎮守

三天山にあり 曼陀羅堂

當山

原古寺にあり 曼陀羅堂

く只一字の州庵れありく村老これ守守ありく小珂憶和尙也

つあり 四月寂別 曼陀羅堂

江府靈巖上人法脈の玄孫にして月表年弘果く智学く諸國

行脚の時寛文年中此地ふ来り微妙の靈域ありて官小許と傳く

佛屋公開と浄土宗流の精舎なりと當山開基と稱す其尾州亞相光友卿

和尙を瑞依し終ひ佛牙舍利三國無双曼陀羅名跡寺因若干と副く

案附く中同是堂舎巖重小建營あり當寺と 聖徳太子の法時

寺院の建方此風俗にして高梁修々柱垣とく地の着ふ後下れ

悉風小側より萬世不易といふ今の世ふこれを珂憶建中といふ風色

と二眼の中にもあり川あり堂あり書あり城あり書あり海面に遊ふ

見くわたりて河内一列の名勝也

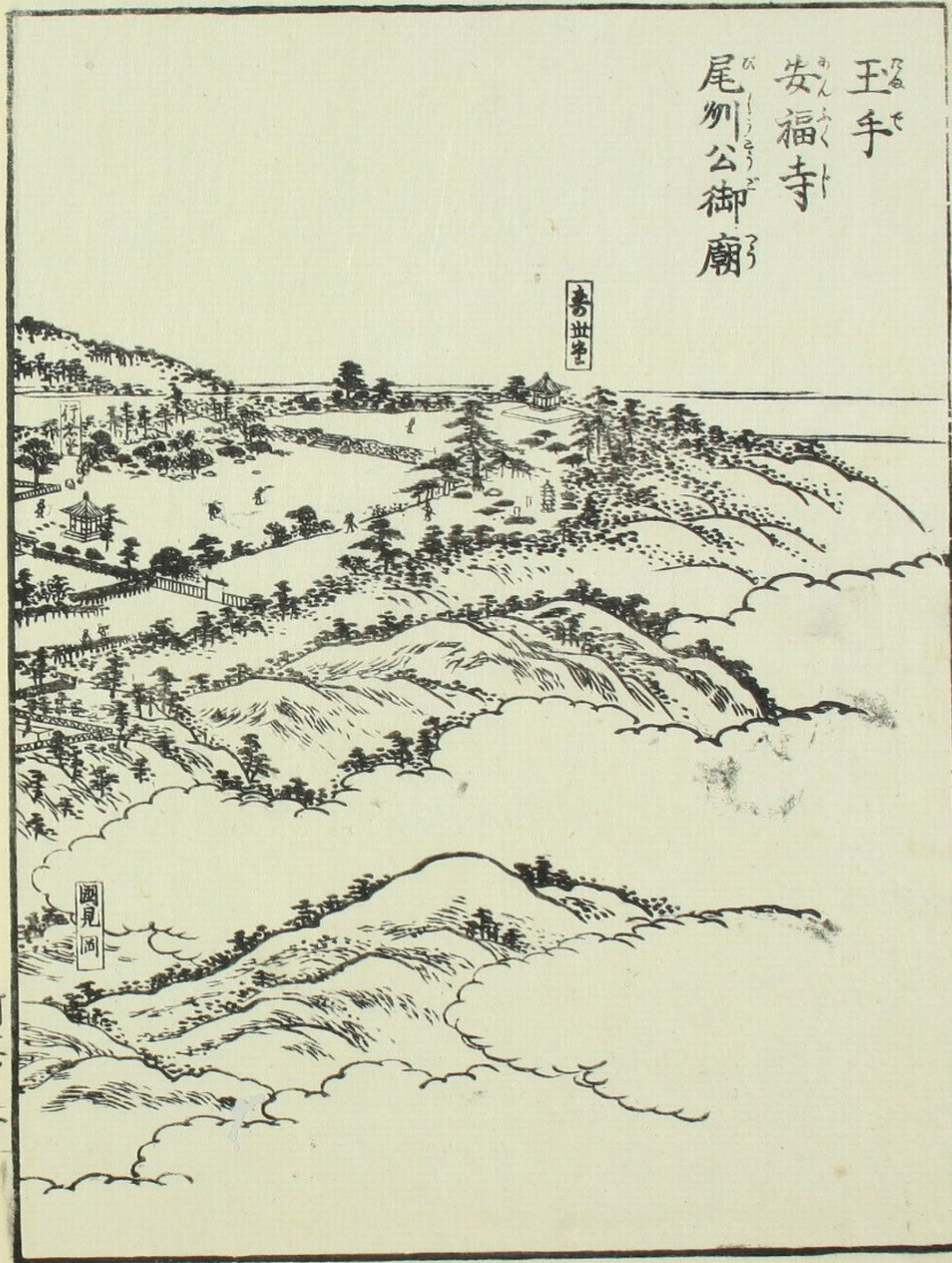
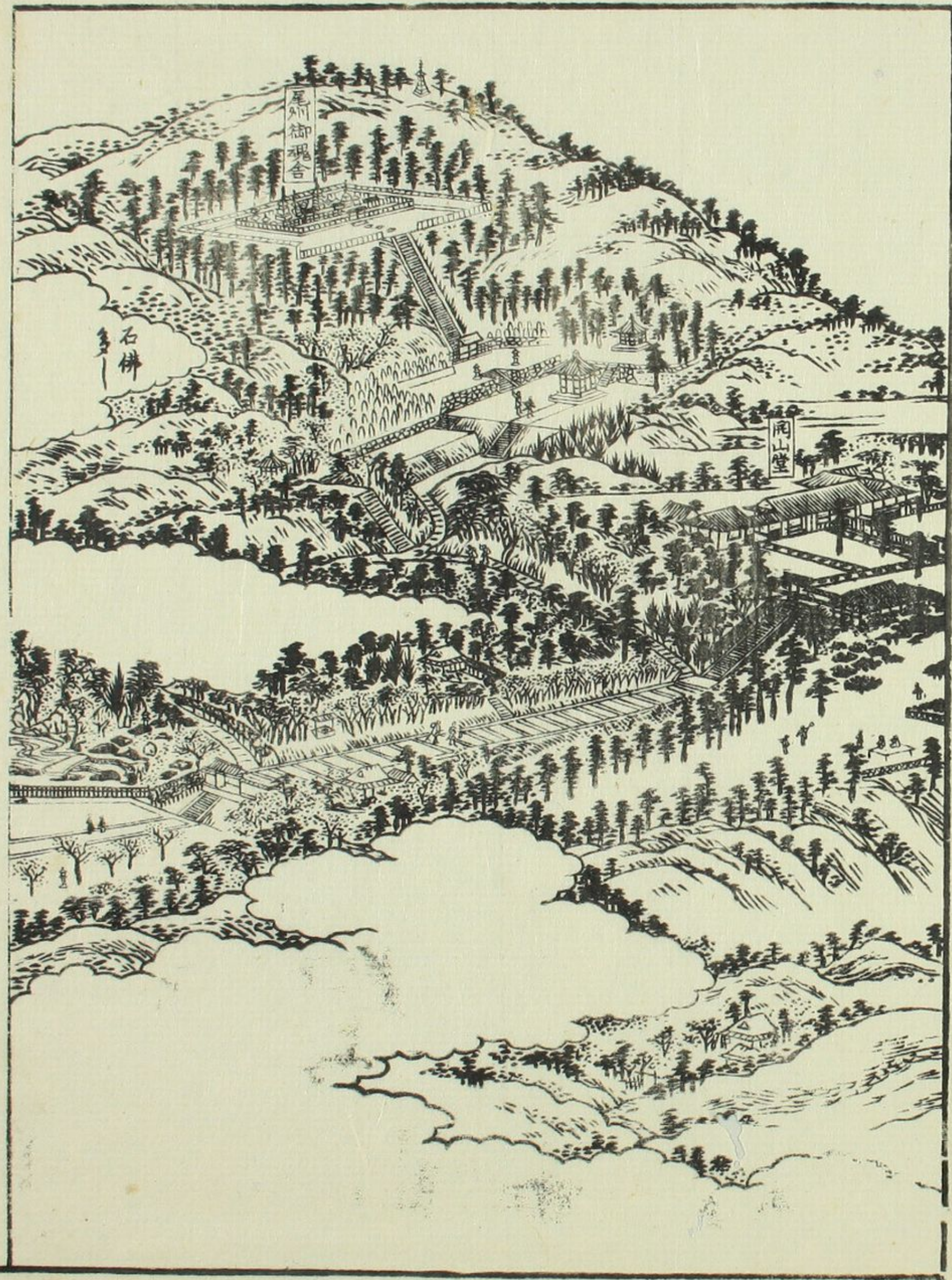
玉手山

安福寺境内及び東の山と云ふ山頂ふ靈氣あり

壙窩

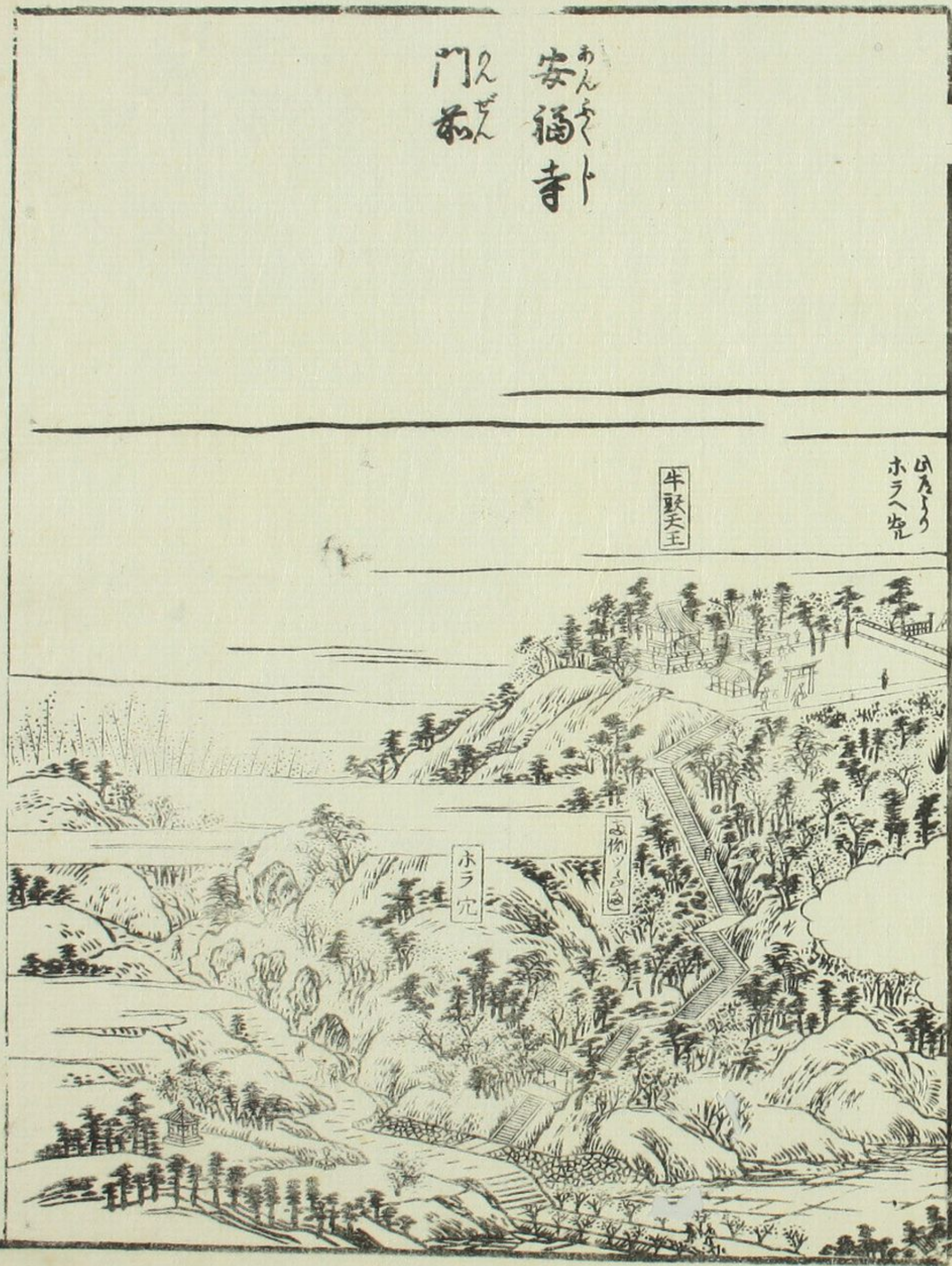
山中ふ二十餘箇所あり小大あり

中より金襴陶器出る



王手
 安福寺
 尾州公御廟

安福寺
門



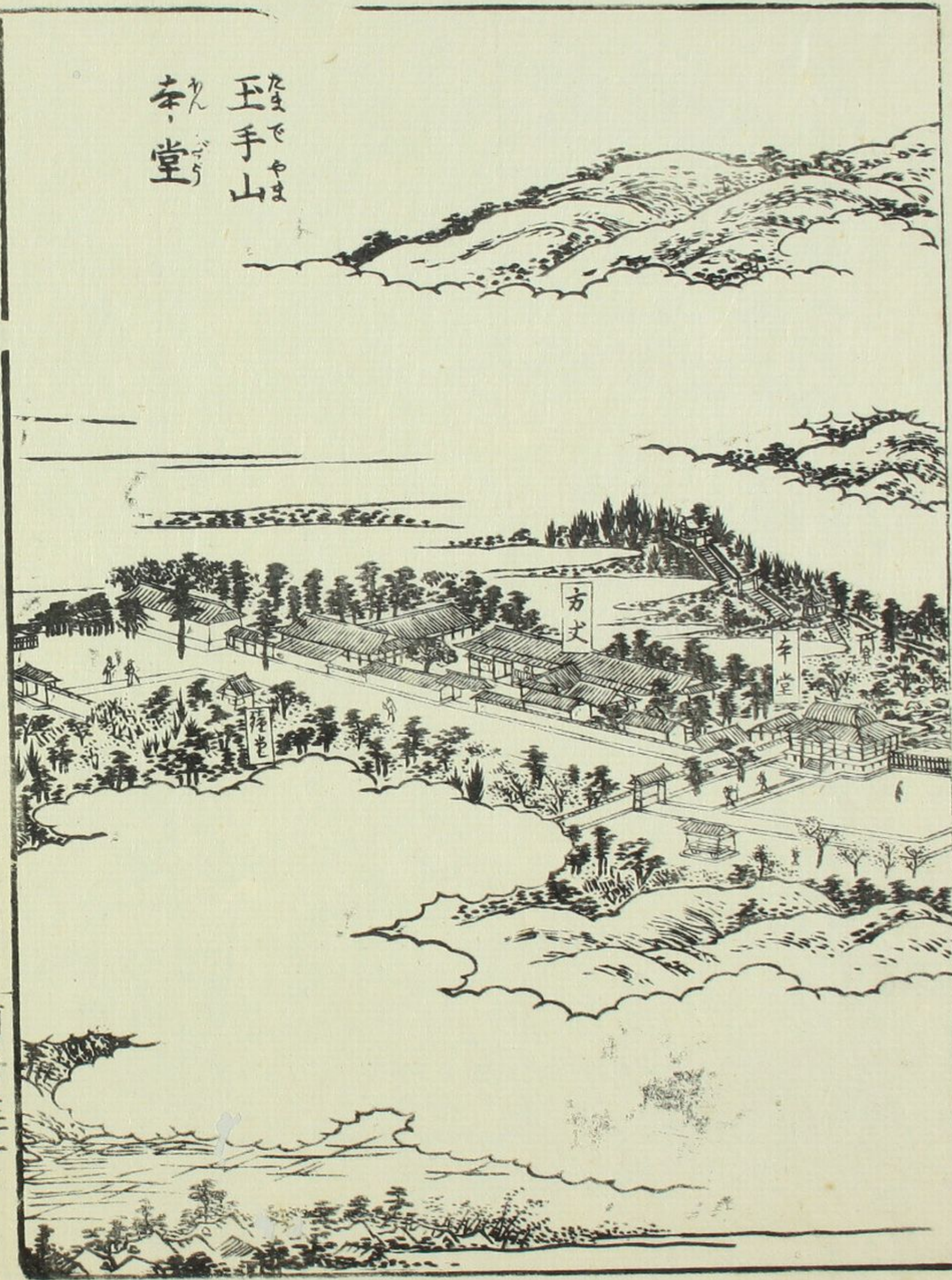
山ノ上
ホラノ穴

牛頭王

ホラノ穴

山ノ上

玉手山
本堂



方丈

本堂

河三ノ二十一

伯太彦神社

登延喜式出天安二年二月預官社云云玉手村故郷天王宮あり
安福寺の法守より今半頭天王宮移入玉子の生封神といふ
後醍醐天皇八月八日比色澤澤尾社といふ

伯太姫神社

登延喜式出天安二年二月預官社云云
圓明村にあり今向山権現と稱す

奥田忠一墓

河内縣云大坂軍の寄子奥田三郎右衛門
忠一討死の石塔あり同家子井上四郎兵衛神子田四郎
兵衛等亦嘉助下野道三河波伴兵衛は討死其外兵平
討死投了り又比斤山古墳多し

慶長戰場

六日淺原基次薄田兼相兵を率へて出陣を仙臺
家臣小倉十郎これに戦ふ兼相の首と獲る也
今比色の上中より武器出る羽板重張る旗矢標等近年
田園の中より出る

春日神祠

田色村にあり又岩窟に
天王祠 圓分村
圓分村にあり

國分廢寺

圓分村舊蹟に石像の遺骸あり延喜式云圓分寺軒一丈八
今觀音堂あり弘法大師作の正觀音を奉り長を尺五寸

枯栖岳

圓分村の
東ありあり 原溪 原山を穿り大和川に入る

名産菖蒲

安福一郡より出る
依產小集る

河内名所圖會卷之三條

